

染織資料 IV—御絵図—

與那嶺 一子*

Material Note The IV Textile item —“Miezu” Design of Weaving—

Ichiko YONAMINE*

はじめに

御絵図とは近世琉球に於いて久米島、宮古、八重山へ貢納布を織らせるために作成された織物の図案の事である。現在、沖縄県立博物館・美術館、那覇市、石垣市立八重山博物館、日本民藝館、個人所蔵の御絵図が確認されている。当館の御絵図については、これまで、何度か写真や基本データ等が紹介されてきた^(注1)。しかし、御絵図は紙の表裏両面に描がかれているにも係わらず、片面のみの情報提供に留まっており、所蔵品の全容を紹介したとは言えないままにされてきた。また、御絵図の研究は絣パターンの分析が主であり、近世琉球の史料としての御絵図の分析は行われていない。今回、写真撮影をきっかけに、御絵図の再整理を行った。この調査データを紹介することで、今後の研究の一助となれば幸いである。

「御絵図」について

当館所蔵資料の報告に入る前に御絵図の概要を述べておきたい。

御絵図の名は、図案（絵図）を貼り付けた冊子の表書きに「御絵図帳」とあった事が由来である。貢納布に関する近世の史料には「絵形」、「御本」「御蔵図」「絵図」とあり^(注2)、近年の研究によりこの名が定着した。「御絵図帳」は図案を貼り付けた冊子の状態を示し、一枚一枚については「御絵図」と称している。

御絵図についての研究は、鎌倉芳太郎の琉球藝術調査事業（1924～1925）、田中俊雄の調査（1938～

1939年）がよく知られている。その後、御絵図研究に関心が高まるのは、1970年代後半である。1978年、大城志津子（当時琉球大教授）が散逸した御絵図の復元を行っている。1991年には沖縄県立芸術大学染織コースの教員を中心とした「御絵図研究会」（祝嶺恭子代表）が発足し、1991年、1992年に渡り調査と分析の結果を報告している^(注1-2,3,4,5-9)。さらに1994年にはこの研究成果をもとに首里の織物保存会が御絵図集を発行している^(注1-5)。

貢納布のための図案を最初に公開したのは鎌倉芳太郎である。財団法人啓明会第十五回講演会（1925年12月29日）で首里の王府で制作した「絵型（イカタ）」「織工の紋様及配色の図案」と紹介している^(注3-1)。

田中俊雄の御絵図研究は、本人の急逝により途絶えてしまったが、遺稿として発表された「沖縄の御絵図帳」は、当時尚家に残る御絵図全てを調査分析した結果であり、御絵図の概要を知る最適な論文である。

鎌倉から1994年の報告までの研究の様子については、別紙の研究一覧を参考されたい^(注3)。

御絵図は貢納布を織るための図案と述べたが、貢納布には定納布と特別注文による御用布がある。定納布は白布のことで、御用布は模様のある織物である。御絵図はこの御用布を織る際に注文書（手形）に添えられていたものである。依頼主は王家（上様）、聞得大君、その他の士族であり、国内用、大和御用などあり、次のような御用があつたことが分る。

「上様御召御用」「聞得大君加那志様御召御

* 沖縄県立博物館博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, Omoromachi 3-1-1, Naha-shi, Okinawa, 900-0006 Japan.

用」^(注2-5)

「躍衣裳御用」「御召御用」^(注2-6)

「御召料」「江戸奥」「御内輪并公儀御殿」「御本丸」「西丸」「御台様」「御内方」^(注2-4)

この御絵図を誰が描いたかという事だが、鎌倉は「貝摺奉行所の絵師」^(注3-3)によるものと述べており、田中は「納殿」で筆者によって描かれた^(注3-4)と考察しており、民藝運動の岡村吉衛門は納殿の絵師が描いた^(注3-2)と、三者三様に見解が異なる。絵師か筆者かという問題の考察は、今回の目的ではないので、今後の研究に委ねるとして、貝摺奉行所に所属していた絵師が描き、納殿に保管されていた可能性もあり、この件は提案に留めておきたい。

貢納布を発注する部署は依頼主によって異なっていた。国王、聞得大君からは納殿の検者を通じて行われ、御殿御用のものは大美御殿を通じ、諸士は島尻方取納奉行である佐敷御殿からの注文が出されている^(注3-8)。この事から御絵図を管理していた部署は納殿だけではなかった事が分かる。発注先となる久米島、八重山島、宮古島にも御絵図の写しが保管されていたことが史料に載っており、誰が描いたかも含めて考察しなければならない課題である。

注文から織りあがりまでの様子は、史料（『久米仲里間切公事帳』）を例にみてみると、次の通りである。これからすると、御絵図は織るための柄見本の役割と検査のための仕様書の二つの役割があったことがみえてくる。

- ① 御絵図（絵形）を添えた注文書（手形）が届く。
- ② 手形を写し取り、両間切の役人（地頭代と御用布当）が相談し、配分する。
- ③ 御用布は各村の役人（掟・目差）と御用布当が一緒に絵形を写し取り、横目と小横目が経糸の分量などを割り出し書面にしておく。
- ④ 御用布当が再度、分量を計算し、割印を押し添え書きをつくり、地頭代の印を押して染物方へ渡す。
- ⑤ 染色した糸と絵形を引き当て、地頭代も同席し検査を行う。
- ⑥ 絵形の写しは地頭代の添書きをして在番の印を押す。
- ⑦ 御内原御用や大和御用のものは、検査済みの

経糸で織りの準備を行い、四、五寸織り始めた所で、在番、地頭代、御用布当が各部落を巡回し検査を行う。織りの途中で何度かこの検査指導を行う。

- ⑧ 織り終ったとの報告があれば、長さ幅、模様を絵形と照らし合わせて最後の検査を行う。
- ⑨ 各村から貢納布の洗濯終了の報告があつたら、蔵元で役人（掟、目差）が手分けして絵形や染色を再度検査する。
- ⑩ 大和御用と御内原御用などは、御本（絵形）を布に添えて送る。

宮古、八重山と久米島では蔵元の機構が異なるので、内容が若干異なるが、ほぼこの通りの工程であったと思われる。御絵図を担当する係りが久米島では蔵元の御用布当と各村の掟・目差であるのに対して、八重山では御用布筆者となっている。宮古では御用布筆者と絵形筆者の役職がこれに係わった。喜舎場家文書に絵図案が描かれた『御用布絵形之見本』という史料があり、蔵元にあったといわれる御蔵本とは、このようなものではなかつたかと思われる。詳細については柳悦州の論文を参照されたい^(注3-10)。

戦前、御絵図は十冊あったと確認されている。この他に勝連盛英氏蔵4枚、日本民藝館収集数枚、啓明会所蔵（鎌倉芳太郎収集）があったようだ。宮古島にあった御絵図は明治30年頃、蔵元の失火により焼失している（田中の調査）^(注3-4)。

田中が調査した御絵図は尚家本八冊、尚家別本一冊（大型本）、今帰仁朝明氏蔵本一冊の計十冊^(注3-4)だが、現在那覇市が所蔵する尚家本「御絵図」は七冊である^(注4)。

田中の調査によると、十冊の御絵図帳には689枚の御絵図があったと言われる。御絵図研究会の調査と当館の御絵図、那覇市所蔵の御絵図を合計すると555枚となる^(注5)。但し切り離された断片なども含むので、田中の調査した御絵図と、どれだけ合致するかよくわからない。散逸したのか焼失したのかもわからない状況である。

所蔵「御絵図」の概要

当館には「御絵図」と名称が付された資料が4件収蔵されている。

- 1 御絵図帳（No.1998）88枚 1959年受入

- 2 御絵図帳 (No.2282) 1 冊 1964年受入^(写真1-1)
 3 御絵図 (復元) (No.13567) 127枚 1990年受入
 4 田中俊雄の研究資料 御絵図 (No.18172) 4 枚
 2004年受入

No.1998とNo.2282の御絵図は廃藩置県以前の近世琉球で貢納布のために作成されたものであり、整理したデータ^(表1)はこの2件の資料である。図版No.M01～No.M93までは登記番号No.1998の御絵図であり、登記番号No.2282は図版No.M94-C01～M94-C12になる。

No.13567は大城志津子による模写(1978年頃)である。No.18172は民芸運動の田中俊雄のコレクションで日本民藝館所蔵の御絵図の模写と思われる。この2件に、近年の模写3枚を加えた134枚については、貢納布を納めた当時の状況を知る資料ではないので、今回の整理データーからは除くことにした。

No.1998の御絵図は琉球政府立博物館時代に高田益子(東京在)から入手したものである。当時の予備台帳には「絵図型紙」「一揃84枚」と記されている。1972～1980年頃の再整理作業で、資料は大きさが大・中・小とバラの状態で、黄色地・水色地・茶色地等は58枚、白地のものが33枚、紺地が1枚の92枚あつた事が確認されている。切り離された断片も含め今回三度び、枚数を確認したところ、96枚で内訳は次のとおりであった。

黄色地(34枚／大1・中29・中変形1・小1・断片2)

香色地(3枚／断片3)

水色地(14枚／中12・小変形1・断片1)

茶色地(5枚／中3・中変形1・小1)

紺地(1枚／中1)

白地(36枚／中32・断片4)

近年の写し(3枚／断片3)

この内、白地の25枚(中24・断片1)については、折本装に仕立てられ形状が変更されている。近年の写し3枚は最初から資料としてカウントされていなかったか、後日混在したのかよく分からない。

No.2282は縦27.5cm横19.0cmの冊子(入手時6丁、後日表紙を付けて8丁)で、入手先が我部稔子(神奈川県在)となっている。これに12枚の絵図が貼り付けられている。絵図とともに、調文(写し)が2箇所(2丁裏・3丁表、5丁裏・6丁表)ある^(写真1-2)。1974年、裏打ちを行うことで紙を補強し、表紙をつ

け、従来の綴じ紐で強く綴じる修理が施された。

資料整理の方法とその考察

御絵図は撮影を行い、表裏の銘書き、印影の確認、糊で貼り付けた跡などの確認を行った。また地色・模様の色についてはカラーガイド(「日本の伝統色」/大日本インキ化学工業株)で確認した。

撮影は、上原久が行い、基本的に一枚ものは表裏を撮影した。裏面のデータが無いものは、折本、冊子、台紙(後年)に貼り付けられ裏の様子が分からないものである。データ採取の後に大きさ、模様、地色で分類整理し図版番号を付した。表と裏の判断は、基本的に銘書きのある面を「表」とし、糊跡のあるものを「裏」とした。上下については、「長」と中央上部に銘書きされた所を「上」とした。また、模様上部分に空間のある所を「上」とした。折本装、冊子に貼り付けのものは、貼り付けの状態で示した。図版番号の「M」は御絵図の意味である。表は「O」で裏は「U」で示した。また、折本装の資料は「D」とし表面を「A」裏面を「B」とした。また、冊子装のものは番号を一つとし「C」に枝番号で示した。

データ整理の結果次のことが確認できた。

[御絵図のサイズ]

当館の御絵図の幅は、変形や断片を除き、40.8～34.8cmである。御絵図は、原寸幅と言われているが、貢納布の布幅は一尺一寸～一尺七寸まであり、必ずしも原寸ではなく、あくまでもデザイン見本であつたと思われる。また、長さも次の4種類に分けられた。

- ① 縦25～28cmの大きさのもの(これを「中」とする)
- ② その半分のもの(これを「小」とする)
- ③ ①を二枚継いだもの(これを「大」とする)
- ④ 断片

小はNo.M59などの変形もみられる。断片には最初から小さく描かれたもの(M90, M94-C09)と、中を裁断したもの(M91, M92, M93)がある。中サイズに分類したNo.M12とNo.M03, No.M10とNo.M06がそれぞれ、繋がることが分かった^(写真2, 3)。資料No.01と同様の仕立てで大型だったが、外れてバラになつたものと考えられる。その他にも2枚ものだったと

思われる御絵図は36枚ある。

〔图案の内容〕

御絵図に描かれる模様のパターンは次の通りである。

1 緋のみの構成（総縞）

- ・経緯縞 経縞 緯縞
- ・経緯縞 経縞
- ・経緯縞 緯縞
- ・経縞 緯縞

2 緋と絹縞（綾中）

- ・絹縞 緯縞
- ・絹縞 経縞 緯縞

4 緋と格子縞（手縞）

- ・格子縞 緯縞
- ・格子縞 経縞 緯縞

模様パターンの詳細については、田中、御絵図研究会、柳の論文を参照されたい^(注3-4, 9, 10)。

御絵図には、①一つの図柄を描いたもの ②いくつかの図柄見本を一枚に描いたもの（M55, M80-DB, M81-DB, M81-DB, M82-DB, M83-DB）があり、②の御絵図には右上に番号が書かれており、蔵元の御蔵本だった可能性がある。

〔彩色〕

御絵図は、まず地引き染めを行い、図柄が描かれている。白地は地染めを行わずに模様が描かれている。

模様は両面に描かれている場合と片面のみの場合がある（片面のみ／No.M01・M05・M18・M36・M37・M39・M40・M41・M42・M43・M48・M50・M53・M85）。

紙は一枚に描かれている例が殆どだが、別の紙で裏打ちされている例もある（No.M34・M46・M54・M55）。No.M85・M87・M88・M89・M90は後年、薄茶色の台紙に貼り付けたものと思われる。

御絵図の地色は白・黄系統・茶系統・水色系統・灰色系統・黒系統の6種類ある。史料や御絵図には、黄系統の色として「黄色地」「香色」「阿まんだ」「黄ガラ茶」があり、茶系統では「柿色」「江戸茶」「煤竹」「茶色」「ソキ色」と示されている。水色系統は「月白色」「水色」とある。灰色系統の色には

「灰色」「鼠」「木之葉鼠」の名が確認される。黒系統には「よしをか」とあり憲法染と呼ばれる黒染めの事を示している^(注2-4, 6)。このように同じ系統でも幾種類かの色味があることは分っていた。

DIC カラーガイドで照合したところ、黄系統は山吹色（赤味の黄色）から深支子（彩度の低い黄色）で表されているものと、香色・阿まんだ色といわれる山吹茶（黄土色）、赤香色（赤味のベージュ）の二つの系統が確認された。黄系統は殆ど鬱金色である。茶系統は赤味の茶、焦茶系統の二種類が確認できた。

水色系統と灰色系統は色味が近いが、今回は二つに分けて考えてみた。水色は深川鼠が殆どで、灰色系統は灰色であった。黒は史料では「よしをか」（赤味の黒）とあるが御絵図では墨で描いているため色味が若干異なる。

模様に使用されている色は黒、白、赤、茶、青、青緑、黄の7種類である。

カラーガイドで確認した色名は下記のとおりである。確固内はカラーNo.である。

〈地色〉

黄（黄色・阿まんだ色・香色）：

山吹色（N-793）・鬱金色（N-795）・深支子（N-798）・たんぽぽ

色（N-805）・カナリヤ色（N-807）

山吹茶（N-750）か黄土色（N-749）・赤香色（N-779）

茶（焦茶・煤竹・江戸茶・柿色）：

小豆色（N-729）・海老茶（N-755）・煤竹色（N-776）

水色：水縞（N-993）・深川鼠（N-949）・抹茶色（N-838）

灰色：灰色（N-950）

黒：墨色（N-960）

〈模様の色〉

白／黒：墨色／赤：朱色（N-713）／茶：海老茶／青：藍色（N-889）・花浅葱（N-886）／青緑：エメラルドグリーン（N-884）／黄：鬱金色・たんぽぽ色

御絵図の色料については、那覇市が国宝「琉球国王尚家関係資料」工芸品の非破壊分析調査を行っており、その結果を参考として示しておく^(注6)。

黄：鉛白＋有機染料（黄色）

橙：丹・朱+石黄
赤：朱
青：群青
青縁：緑青
白：鉛白
黒：墨

[銘書き]

御絵図の上下左右の端には銘書きが施されているものがあり、当時どのようなやり取りがあったのかを知る貴重な手がかりである。銘書きは朱書きと墨書きがある。

銘書きを整理したところ、①布の長さ幅に関すること、②紙の表裏に関すること、③年号月に関する事、④発注元に関する事 ⑤発注先に関する事の五つに分類できる。

①には「長」「幅」「巾」「横」「よこ」があり、「長」は殆ど紙のほぼ上中央に記されており、長さというより縦を意味しているものと思われる。右端に記されているものが4例(M17-O・M94-C09・M94-C10・M94-C11)ある^(写真4)。

「幅」「巾」「横」「よこ」は紙の横を示していると思われる。右端に記されている例が殆どだが、下部に書かれている例も多い。左端に書かれたものもある。また、紙を横に置いて書いた例も多い(M03-O・M94-C09・M94-C10・M94-C11など)^(写真5・6) M30-Oには「壹尺三寸五分」と布幅が示されている。

②については、M21-U・M24-Oにそれぞれ「裏」「表」の記載がある。この2枚は両面に描かれており、布を織るにあたり、どちらが表でも特に問題は無いが、表裏を明らかにしないとならない何らかの必要があったと思われる。

③については下記の通り記されていた。

- 1 道光拾八年戊二月 (M02-O)
- 2 同二拾三年卯二月 (M02-O)
- 3 子二月 (M10-O)
- 4 辛十二月 (M30-O)
- 5 道光十八年戊二月 (M45-O)
- 6 酉年 (M51-O)
- 7 三月 (M59-O)

御絵図に記されている年号は絵図製作年ではなく使用年(注文した年)である^(注3-4)。

史料によると各島には六月に手形と絵形が届くことがある^(注2-1)ことから、これらの銘は発注元(依頼した側)が記した年と月だと思われる。M02の御絵図は道光拾八年と二拾三年に使われたことが記されており、何度か同じものを使っていたことが明かである。

田中は、御絵図に記された年号から、これらの御絵図は、乾隆五十四年(1789年)～道光二十四年(1844年)の間に使用されていたものと述べている。

④の発注元について分かるものは、当館所蔵品では「佐敷御殿御用」と記された一例のみである。佐敷御殿とは、王妃の公務を司る場所であり、王家からの発注だと思われる。

御絵図には、「八重山嶋」「久米嶋」と記されたものがあり、これが⑤の発注先になる。No.M02の御絵図には道光拾八年に八重山嶋に同二十三年に久米嶋へ送られたことが記されている。御絵図は白地が八重山、黒地が宮古、黄色・茶色等の色物が久米島といわれているが、必ずしもそうではないことがこの御絵図から読みとれる。

[印影]

御絵図には、墨の印影がみられる。全ての御絵図にそれがあるわけではないが、丸印と角印が確認される^(写真7・8)。丸印は、署名の後に押される私印と同じものである。史料によると絵形を写し取る際に、久米島では地頭代が添え書きし、在番が印を押しており、八重山では在番、頭が押印するとある。発注に関わる納殿や大美御殿、佐敷御殿の役人達の印という事も考えられ、この解明も今後の課題である。

M94-C01、M94-C03、M94-C05、M94-C07には角印で割印の印影がみられる。これは役所の印ではないかと思われるが、王府内のものか、蔵元のものなのか、判読不明である。

印影が全く確認できない御絵図もあるが、多いもので3箇所押印されている場合がある。御絵図の表裏の両面に押印の例もある。また、銘書きのある御絵図の裏面に押印されたものもある。

これらの印影は、殆ど割印となっており、角印は全て割印である。丸印には割印のものとそうではないものがある^(写真9)。丸印は貼り付けた冊子と御絵図に押されたものだと思われる^(注6)が、発注者から送られた御絵図を写しとる際、原本と写しに押した

ものとも考えられる。2～3件の押印は、発注の回数に関係するのではないかと思われる。

おわりに

当館の御絵図を整理することで、課題がいくつか浮かびあがってきた。

失われた御絵図2冊がどこに散逸したのか、それは大きな課題である。御絵図二枚を継いだ「大型本」と「御上国御用嶋紬図」と標題のついた御絵図帳が不明の2冊だと思われるが、今回の整理で当館所蔵品の一部がその大型本である可能性がてきた。当館の所蔵品のM01が大型本になる。また、M12・M03、M10・M06が一枚に繋がることが分っており、さらに二枚ものになるだろう絵図が30枚以上ある。詳細な考察は今後に委ねたい。

御絵図の紙料について、安慶名清氏に目視での確認を依頼したところ、楮との回答を得た^(写真10)。かなり薄く上質で、琉球で漉いたものかどうかは不明とのことであった。紙料を含め、顔料などの色料の分析も今後の研究課題である。

また、誰が、どこで描いたかという点も大きな問題点である。さらに、御絵図中の「長」「よこ」の文字が絵柄とどう関わるのか、印影は誰のもので、どの場面で押されるのか、など解決すべき課題が多い。

御絵図は長く幻の資料であった。当館所蔵の御絵図は、何度か研究者へは公開してきたが、今回の再整理したデータを示すことで研究が進みさらに御絵図が解明されていくことを希望している。

注1) 当館の御絵図を紹介したもの

- 1 「御絵図帳の一部」『琉球の文化』2号 大城精徳編 琉球文化社 1972
- 2 祝嶺恭子ほか「琉球王朝時代における「御絵図」そのI資料写真」『沖縄県立芸術大学美術工芸学部紀要』第4号 沖縄県立芸術大学美術工芸学部編・刊 1991
- 3 祝嶺恭子ほか「琉球王朝時代における「御絵図」そのII資料写真」『沖縄県立芸術大学美術工芸学部紀要』第5号 沖縄県立芸術大学美術工芸学部編・刊 1992
- 4 「御絵図帳」『工芸指導所20年のあゆみ(染織技術支援

編)』沖縄県工芸指導所 平成8

- 5 沖縄伝統本場首里織物保存会監修『御絵図』沖縄伝統本場首里織物保存会 2001年

注2) 貢納布に関する近世の史料

- 1 八重山嶋御用布座公事帳 (喜舎場家文書)
- 2 久米仲里間切公事帳
- 3 宮古嶋御用布座公事帳
- 4 「貢布力ナ入目」『紬関係書類』(吉濱家文書)
- 5 調文 (日本民藝館所蔵)
- 6 御絵図帳より「調文」(沖縄県立博物館・美術館蔵／No.2282)

注3) 御絵図に関する論文

- 1 鎌倉芳太郎「琉球美術工藝に就きて」『財団法人啓明会第十五回講演集』1925
- 2 岡村吉衛門「七、御絵図帳と御用布」『琉球絣と紅型』衣生活研究会 1971
- 3 鎌倉芳太郎「第三章 織工芸」『琉球文化の遺宝』(株)岩波書店 1982
- 4 田中俊雄「沖縄の御絵図帳」(遺稿)『民藝』第361号 1月号 日本民藝館 1983
- 5 大城志津子「御絵図帖一貢納布時代の絣图案集」県広報誌『沖縄』No.96 沖縄県 1983
- 6 田中俊雄「沖縄の御絵図帳」(遺稿)『八重山の染織－日本民藝館蔵－』石垣市立八重山博物館 1987
- 7 大城志津子、上江洲敏夫「沖縄の織物」『沖縄美術全集』3染職 沖縄タイムス社 1989
- 8 上江洲敏夫「〈史料紹介〉染織資料三題」『史料編集室紀要』第14号 沖縄県立図書館史料編集室 1989
- 9 祝嶺恭子ほか「琉球王朝時代における「御絵図」：絣基本単位による分析」『沖縄県立芸術大学美術工芸学部紀要』第5号 沖縄県立芸術大学美術工芸学部 1992
- 10 柳悦州「御用布檜形之見本」と「御絵図」における絣の分類と比較』『沖縄芸術の科学』第6号 沖縄県立芸術大学附属研究所 1993
- 11 柳悦州「沖縄の織物の特徴－御絵図と日本民藝館所蔵沖縄織物との比較」『沖縄県立芸術大学紀要』第2号 沖縄県立芸術大学 1994
- 12 祝嶺恭子「御絵図」『織の海道』Vol. 2 沖縄本島・久米島編 「織の海道」実行委員会 2004

注4)「尚家継承美術工芸－琉球王家の美－」那覇市
平成14

注5) 現在所蔵確認される御絵図

日本民藝館 (29枚)

石垣市立八重山博物館（46枚）

個人藏 (6 枚)

海外（1枚）

那霸市 (368枚)

沖縄県立博物館・美術館 (105枚)

注6) 下山進・下山裕子「国宝「琉球国王尚家関係資料」工芸品(染織資料等)の非破壊分析調査報告書」「那霸市歴史博物館紀要』第1号 那霸市歴史博物館 2009

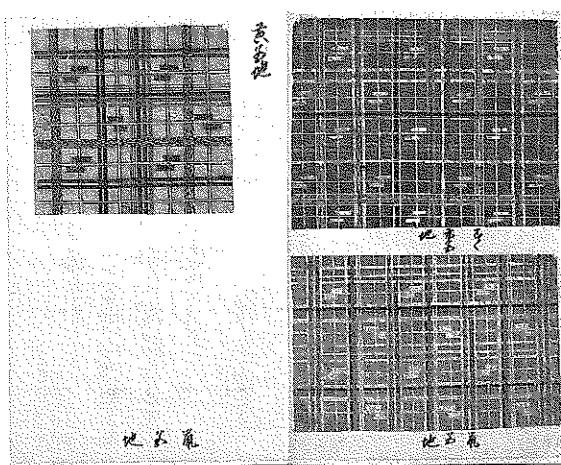


写真 1-1) 御絵図帳(御絵図部分)

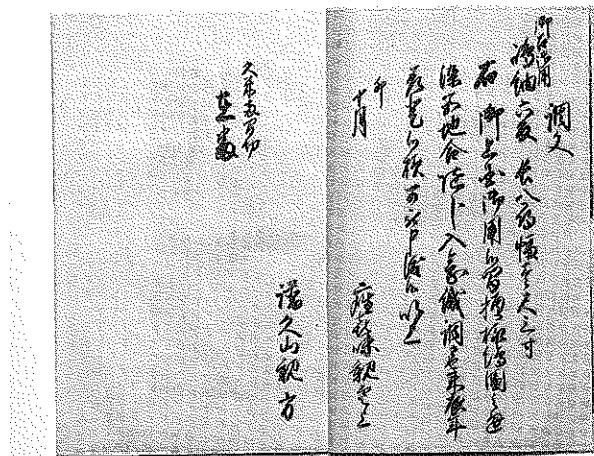


写真1-2) 御絵図帳(調文部分)

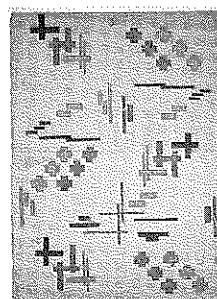


写真2) 大型本1

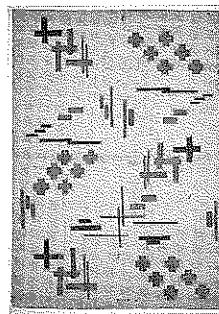


写真3) 大型本2

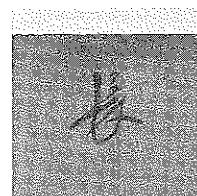


写真4) 銘「長」

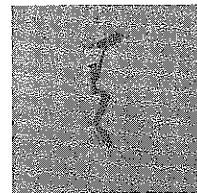


写真5) 銘「よこ」 1

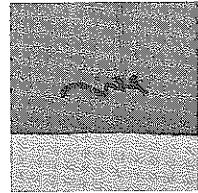


写真6) 銘「よこ」 2

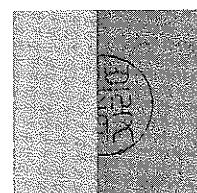


写真 7-1) 割印

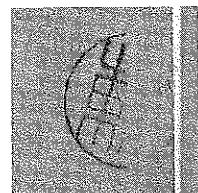


写真 7-2) 紙を合わせて割印したものか

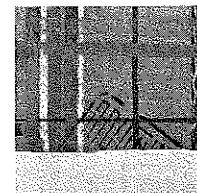


写真8) 割印(角印)

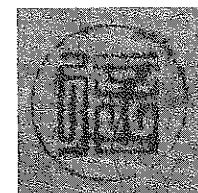


写真9) 丸印

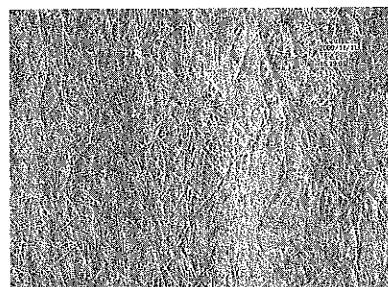
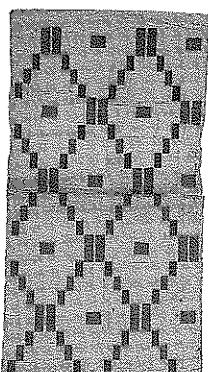
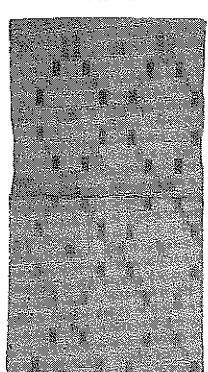


写真10) 御絵図スコープ拡大

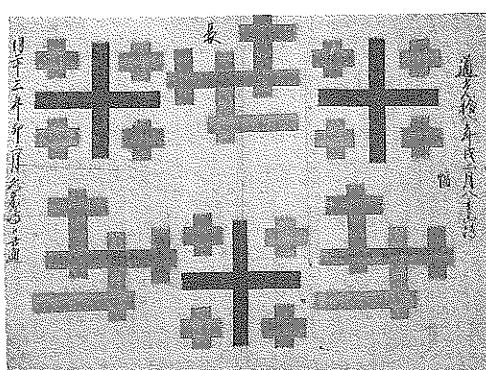
No. M01-O



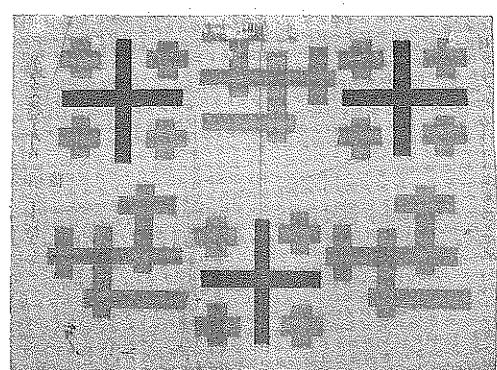
No. M01-U



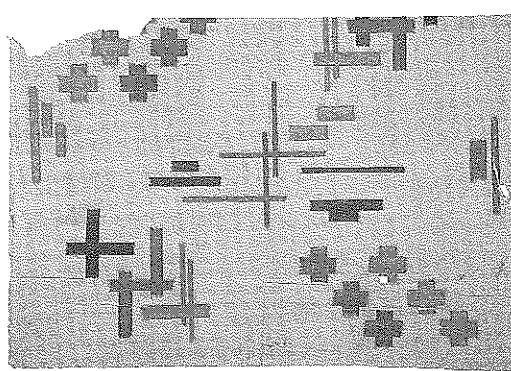
No. M02-O



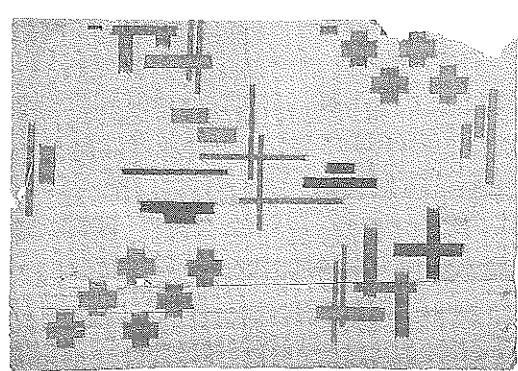
No. M02-U



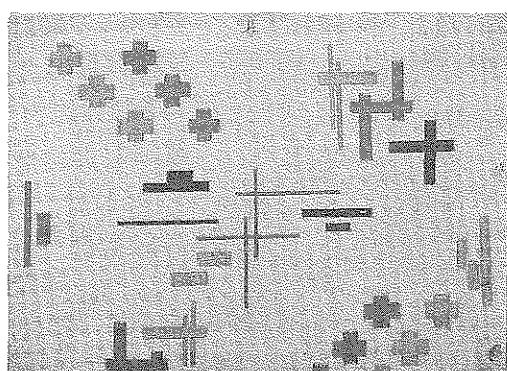
No. M03-O



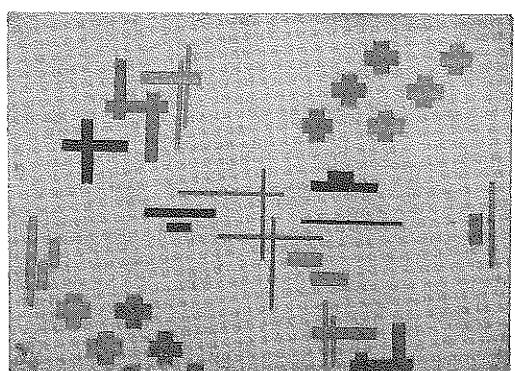
No. M03-U



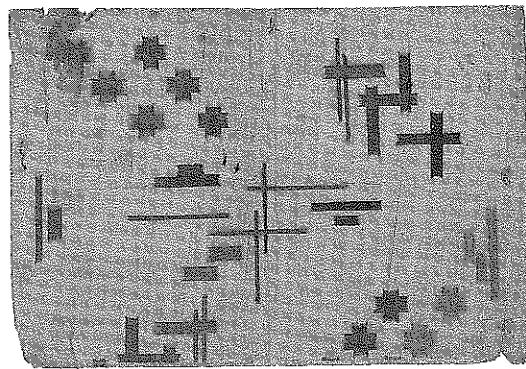
No. M04-O



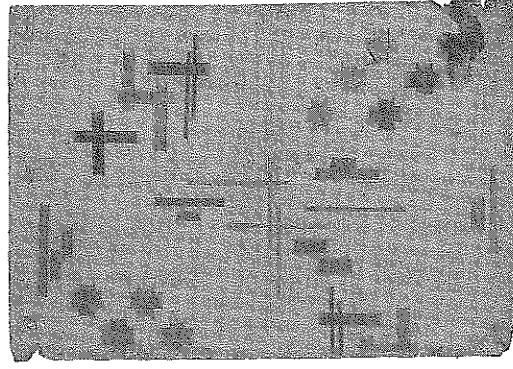
No. M04-U



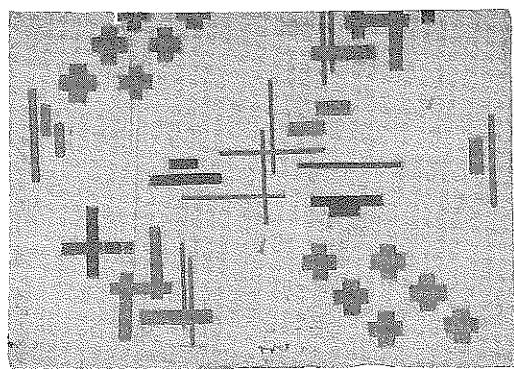
No. M05-O



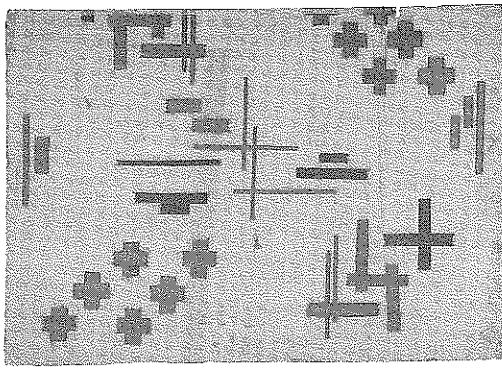
No. M05-U



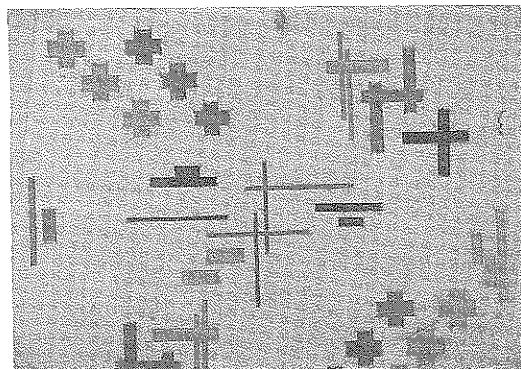
No. M06-O



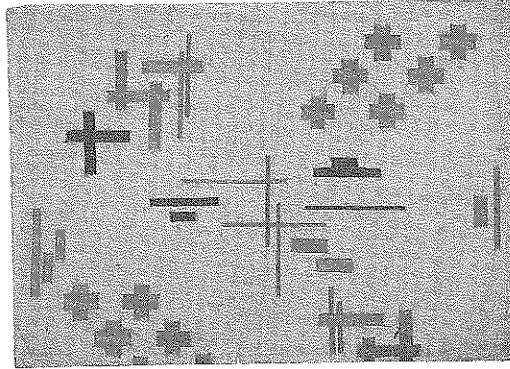
No. M06-U



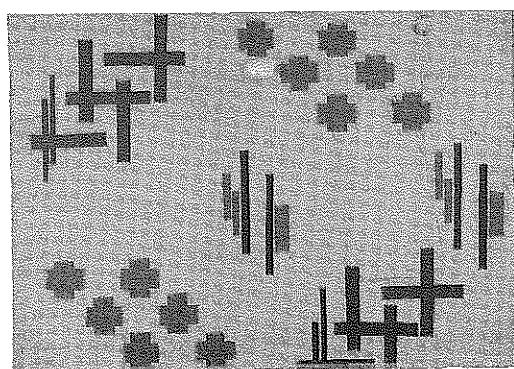
No. M07-O



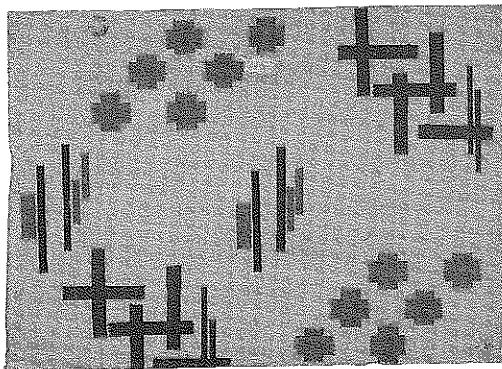
No. M07-U



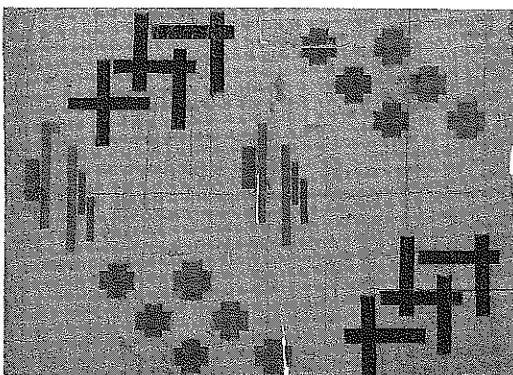
No. M08-O



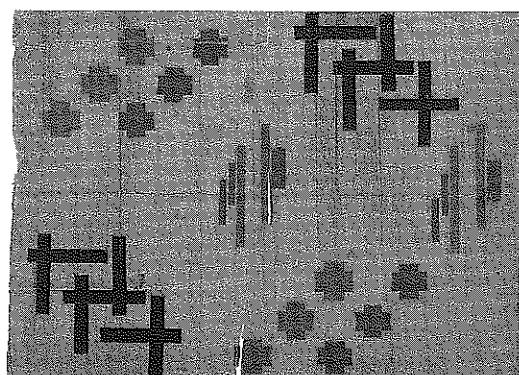
No. M08-U



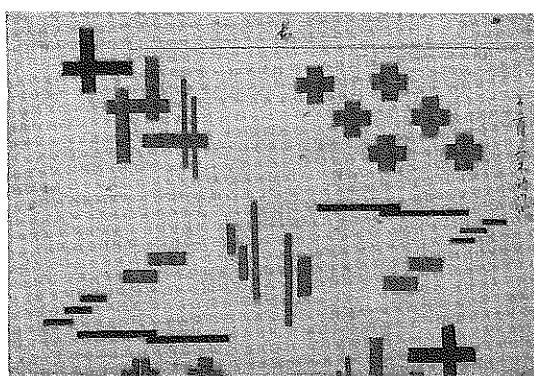
No. M09-O



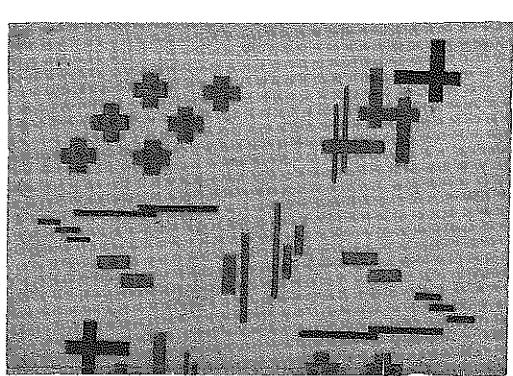
No. M09-U



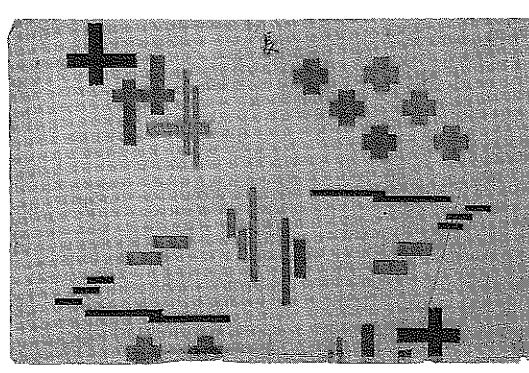
No. M10-O



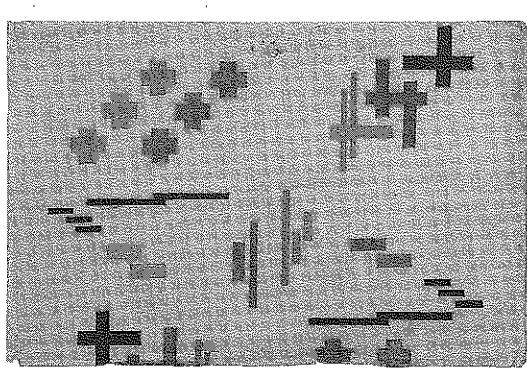
No. M10-U



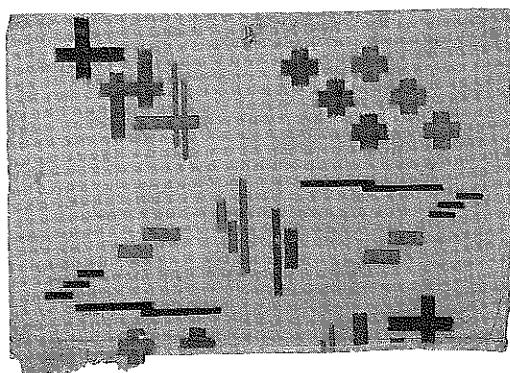
No. M11-O



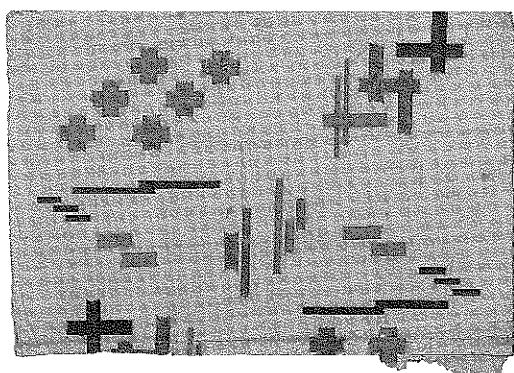
No. M11-U



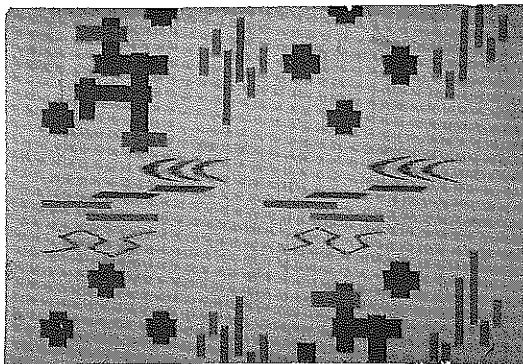
No. M12-O



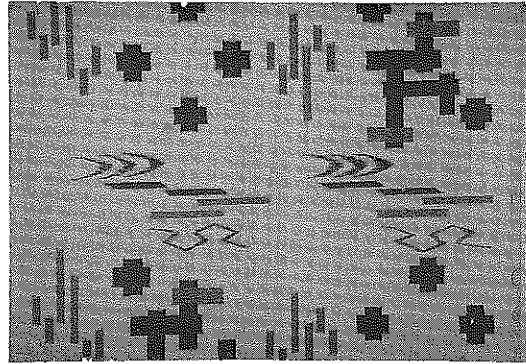
No. M12-U



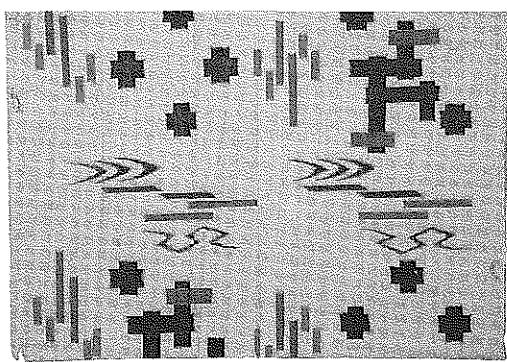
No. M13-O



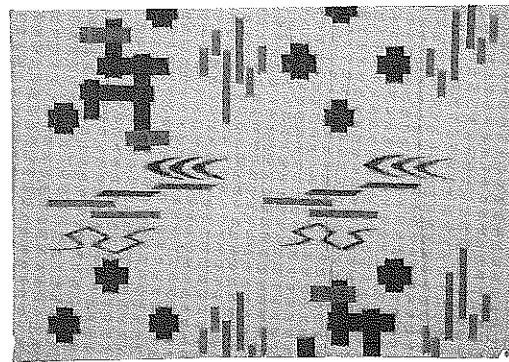
No. M13-U



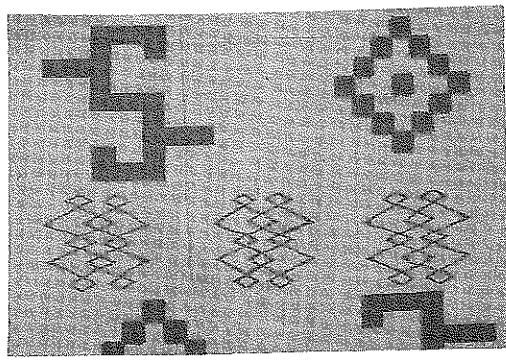
No. M14-O



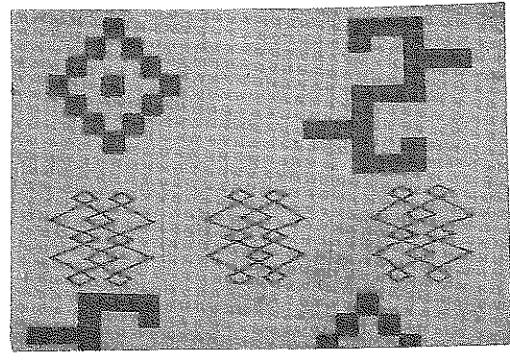
No. M14-U



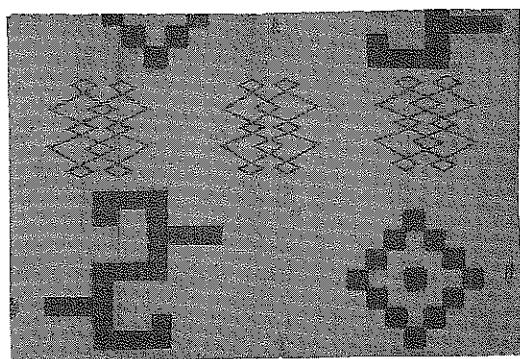
No. M15-O



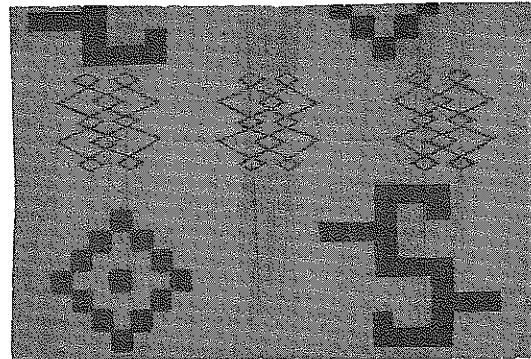
No. M15-U



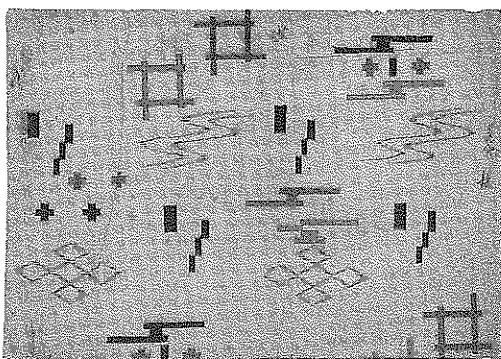
No. M16-O



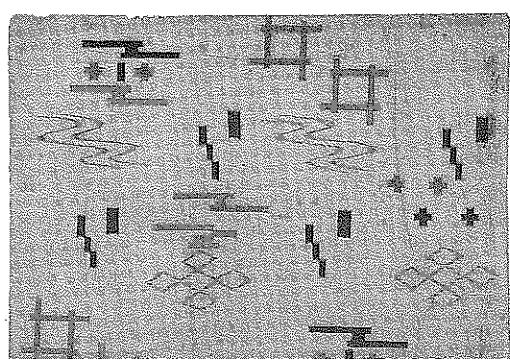
No. M16-U



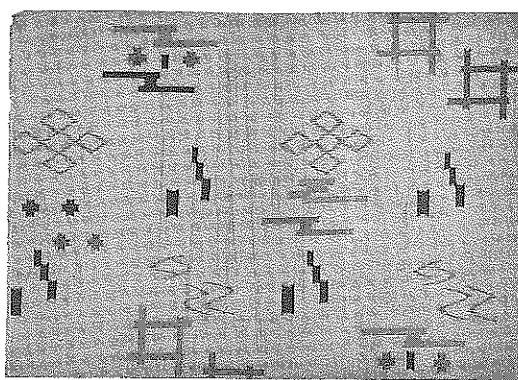
No. M17-O



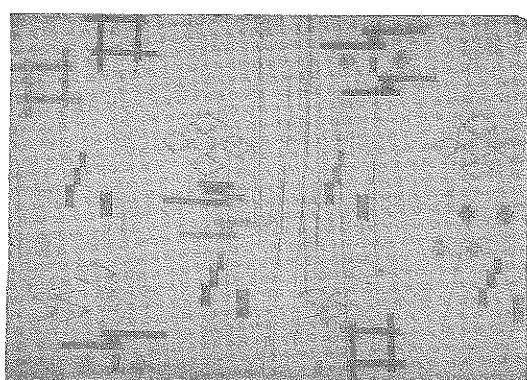
No. M17-U



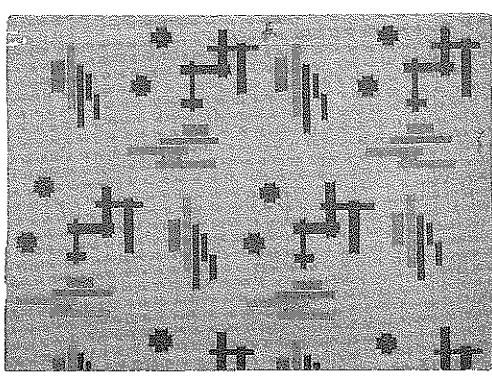
No. M18-O



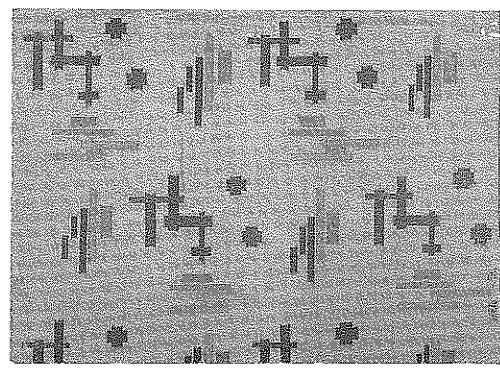
No. M18-U



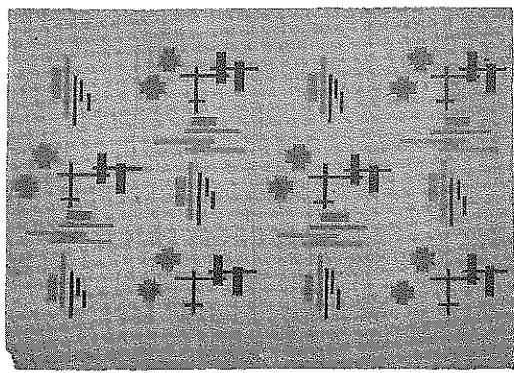
No. M19-O



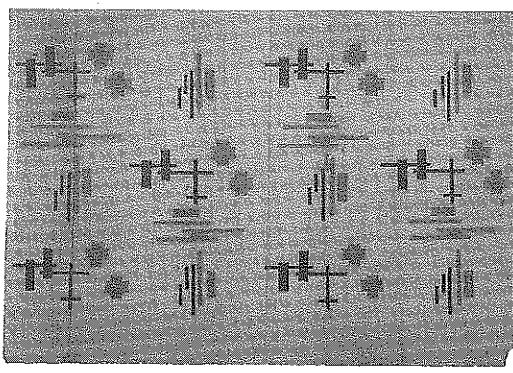
No. M19-U



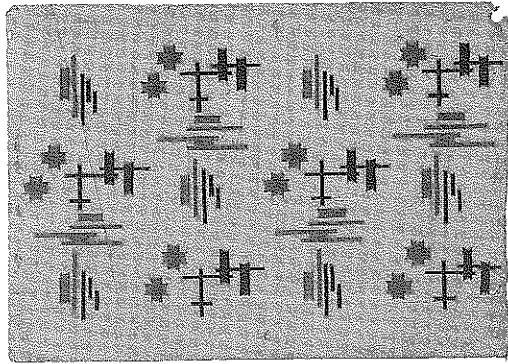
No. M20-O



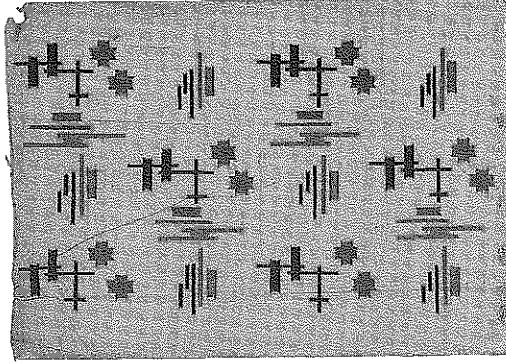
No. M20-U



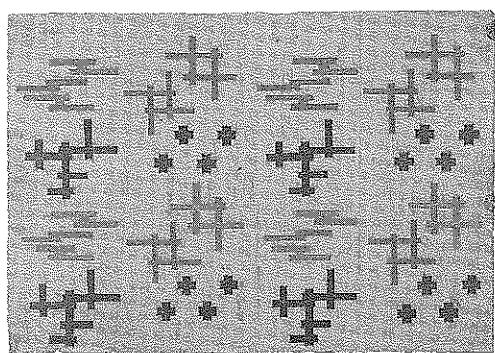
No. M21-O



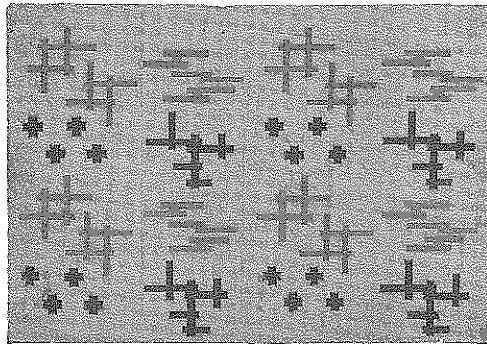
No. M21-U



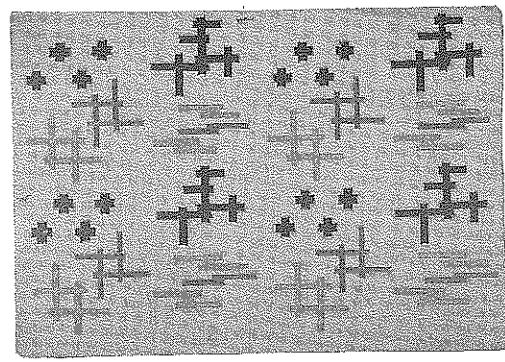
No. M22-O



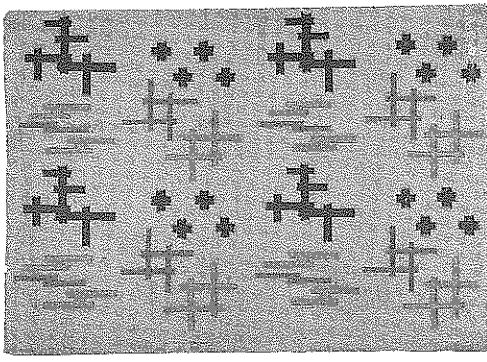
No. M22-U



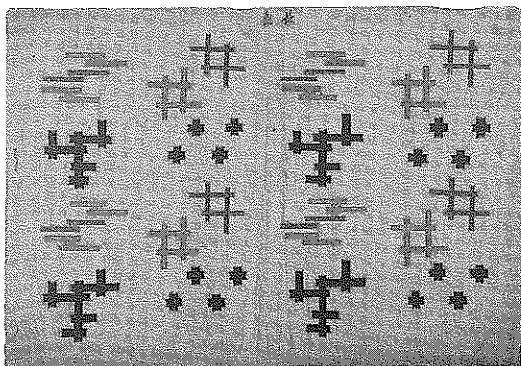
No. M23-O



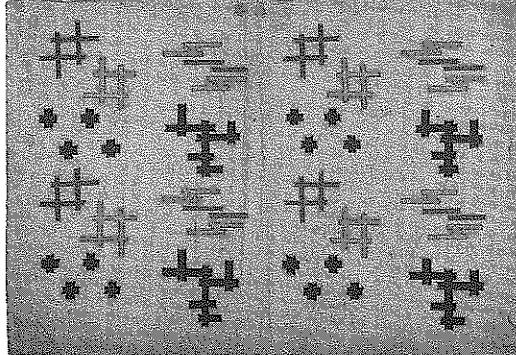
No. M23-U



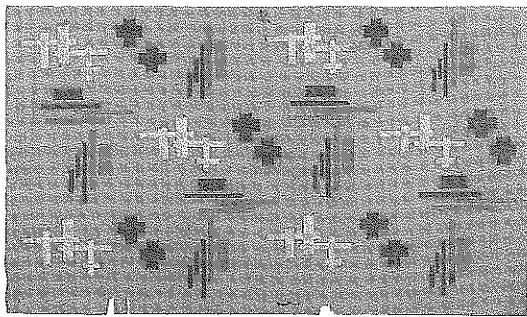
No. M24-O



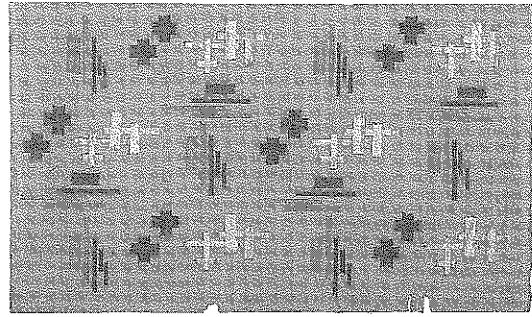
No. M24-U



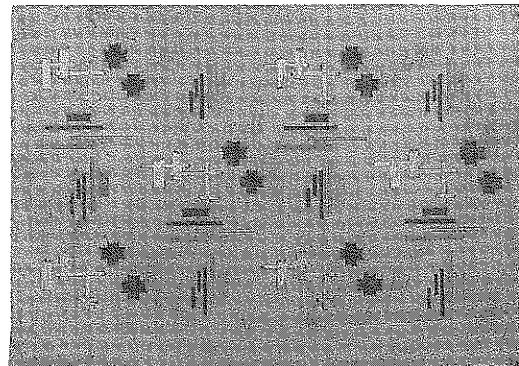
No. M25-O



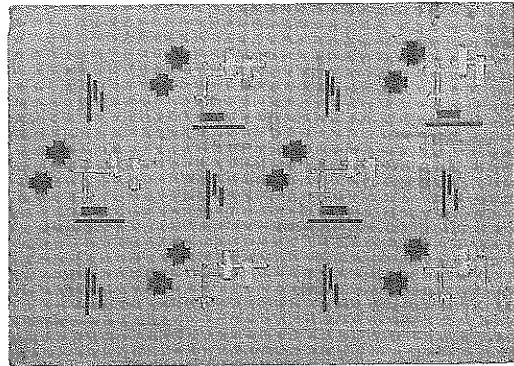
No. M25-U



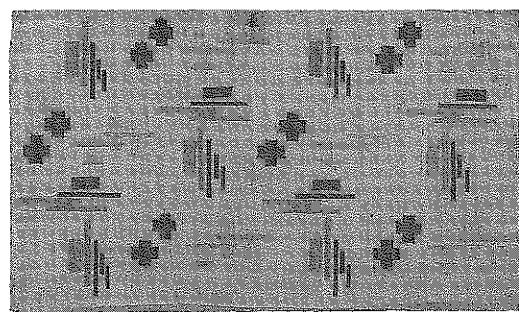
No. M26-O



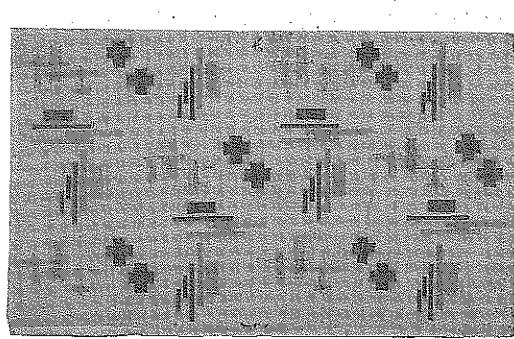
No. M26-U



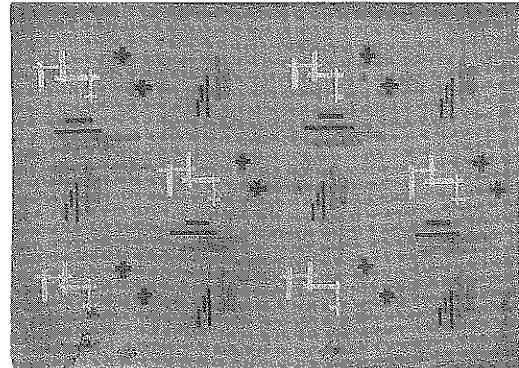
No. M27-O



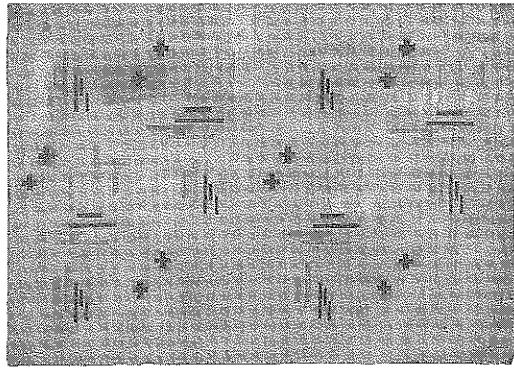
No. M27-U



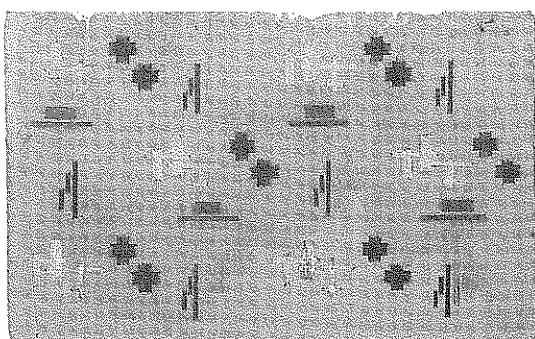
No. M28-O



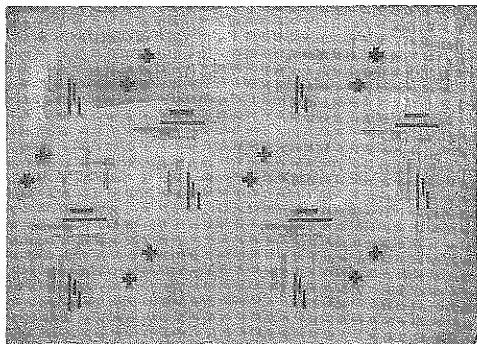
No. M28-U



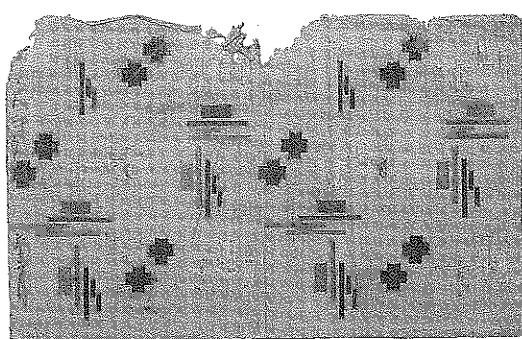
No. M29-O



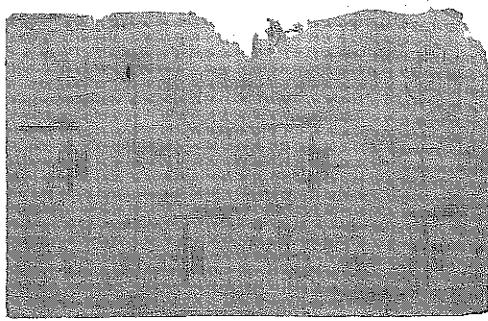
No. M29-U



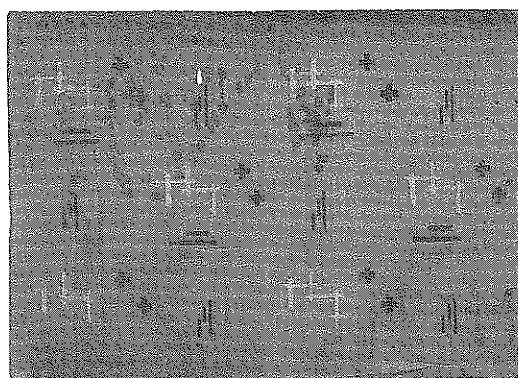
No. M30-O



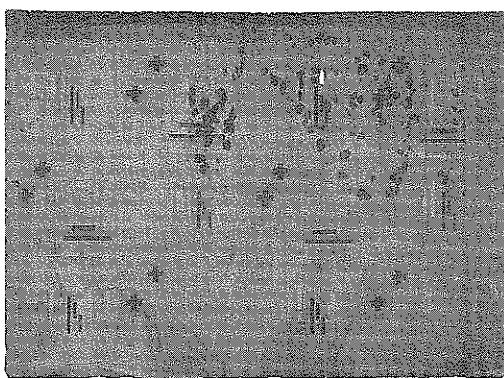
No. M30-U



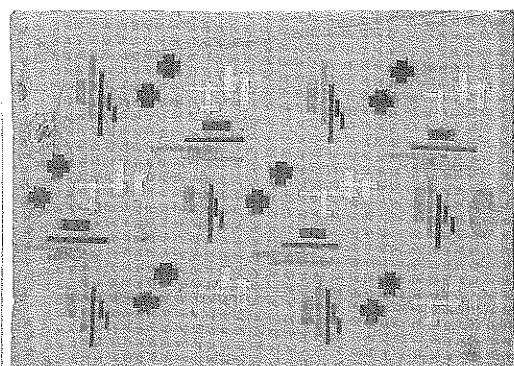
No. M31-O



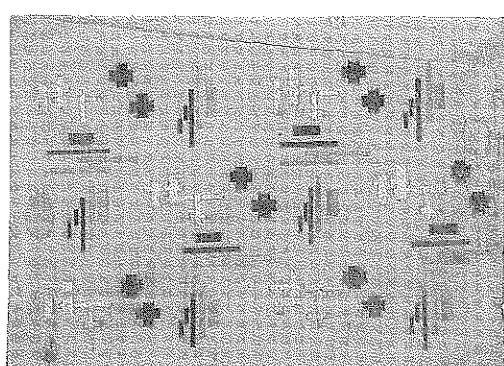
No. M31-U



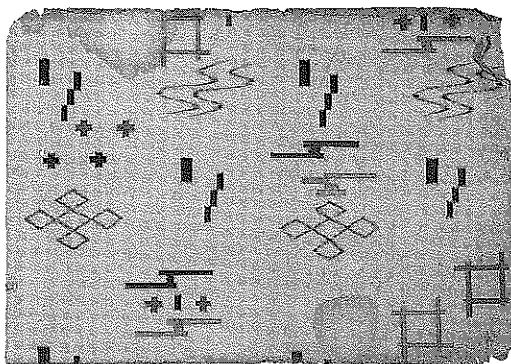
No. M32-O



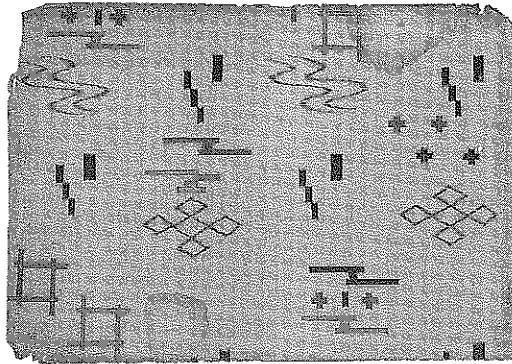
No. M32-U



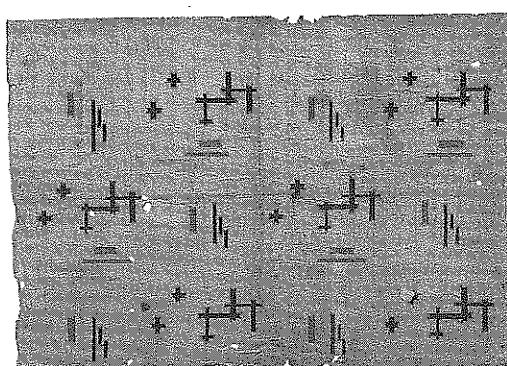
No. M33-O



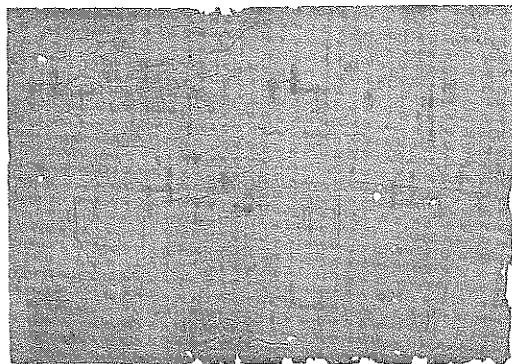
No. M33-U



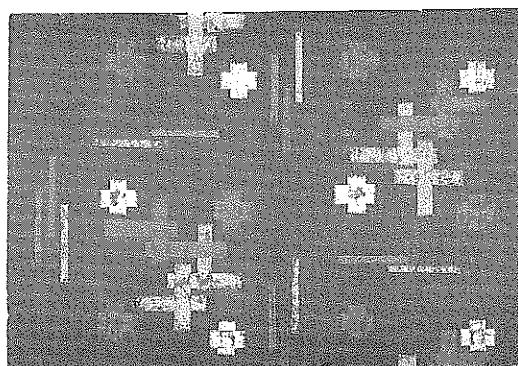
No. M34-O



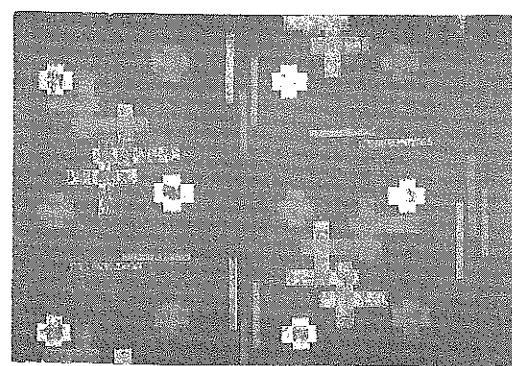
No. M34-U



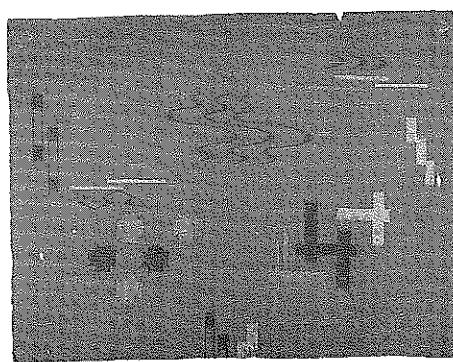
No. M35-O



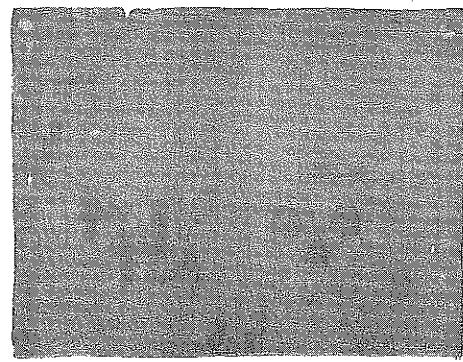
No. M35-U



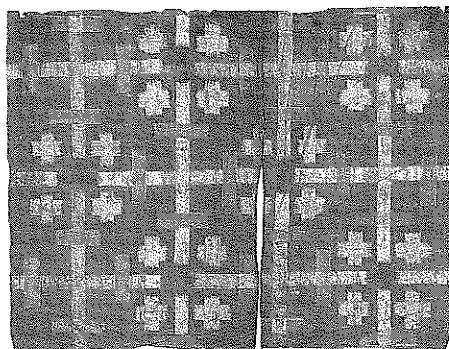
No. M36-O



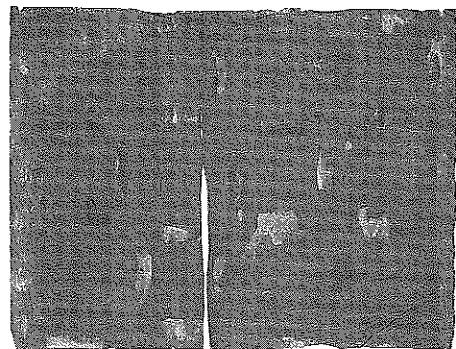
No. M36-U



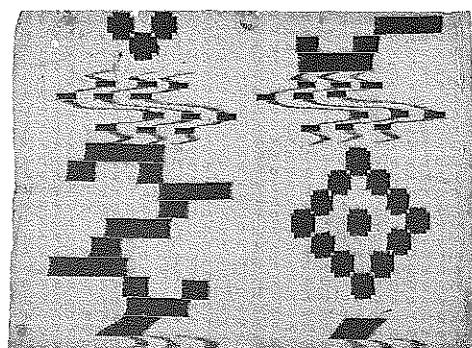
No. M37-O



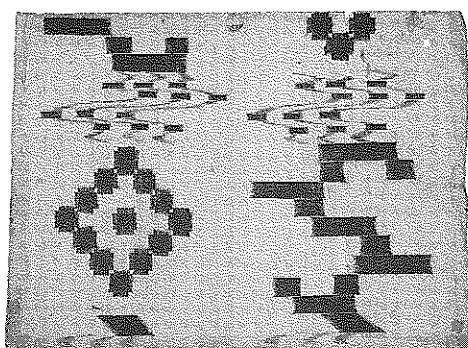
No. M37-U



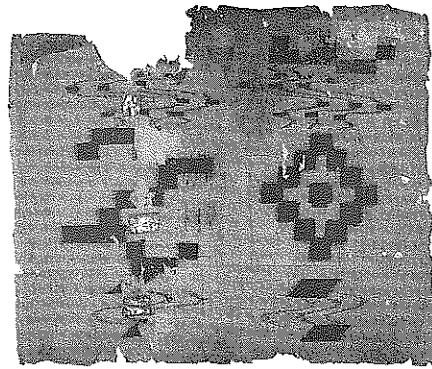
No. M38-O



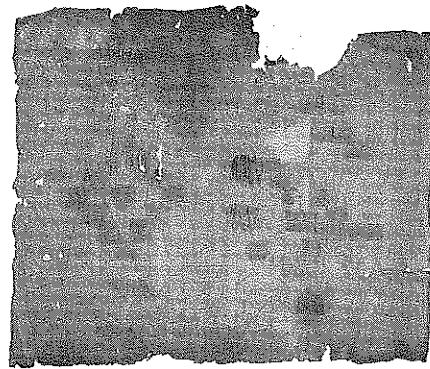
No. M38-U



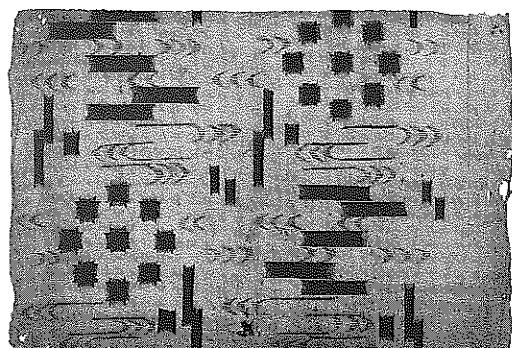
No. M39-O



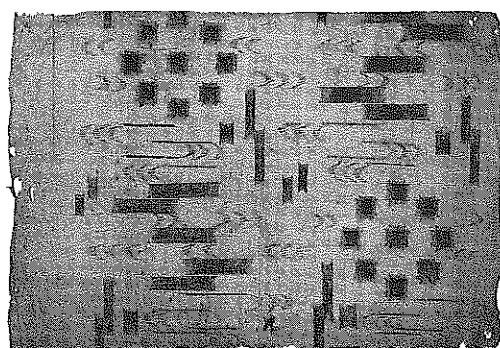
No. M39-U



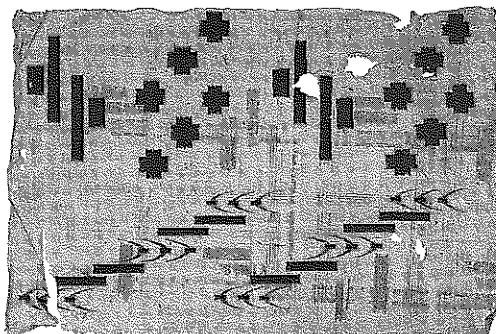
No. M40-O



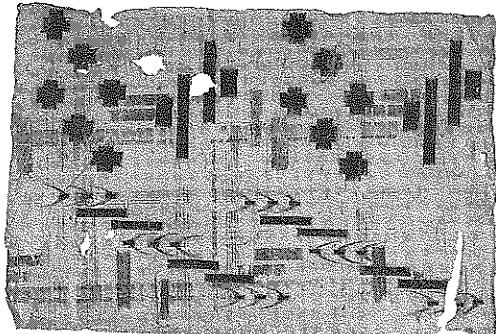
No. M40-U



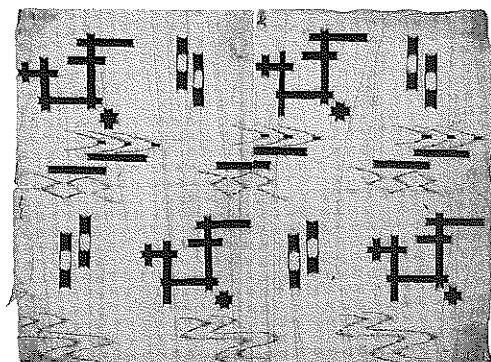
No. M41-O



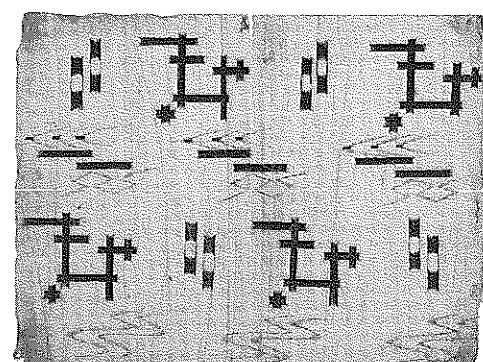
No. M41-U



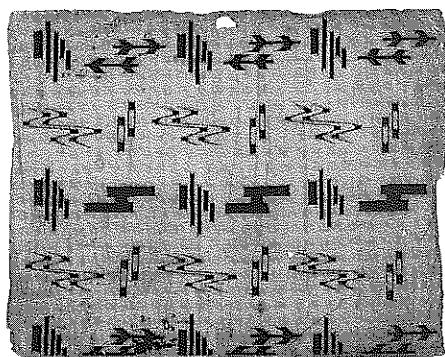
No. M42-O



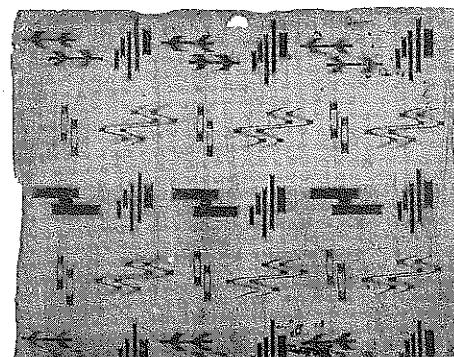
No. M42-U



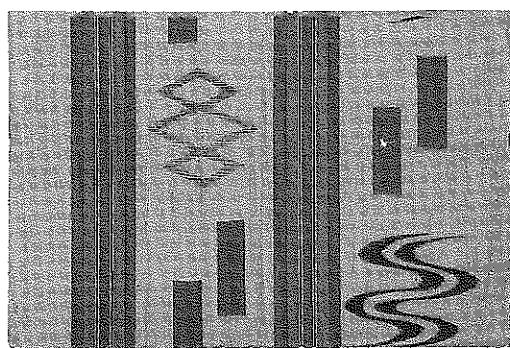
No. M43-O



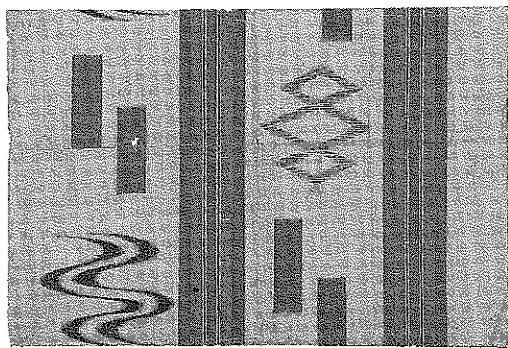
No. M43-U



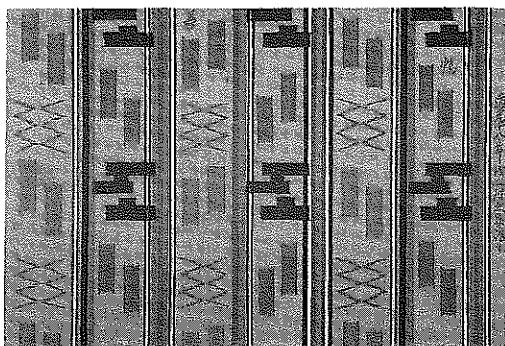
No. M44-O



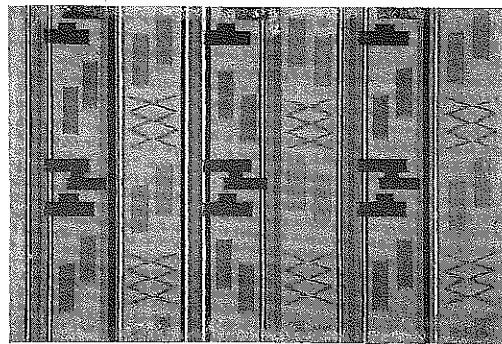
No. M44-U



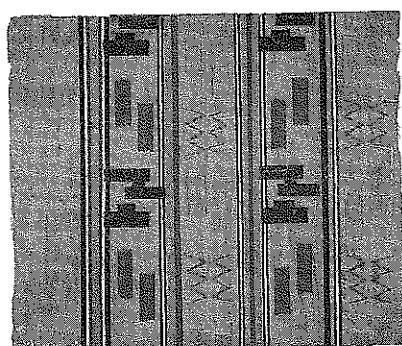
No. M45-O



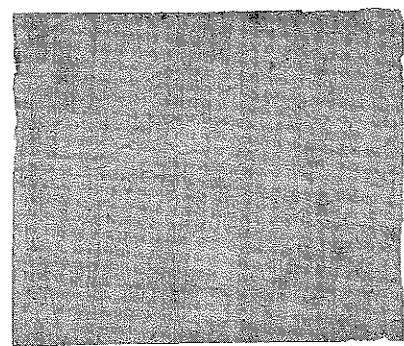
No. M45-U



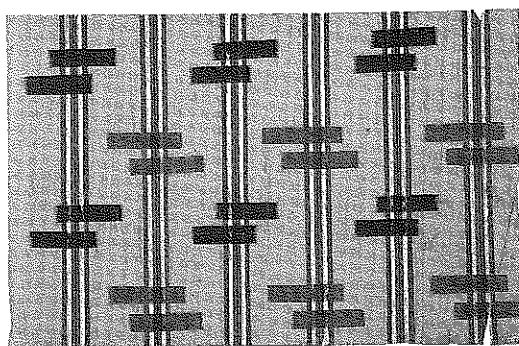
No. M46-O



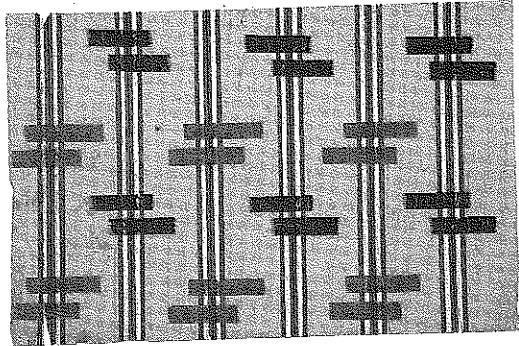
No. M46-U



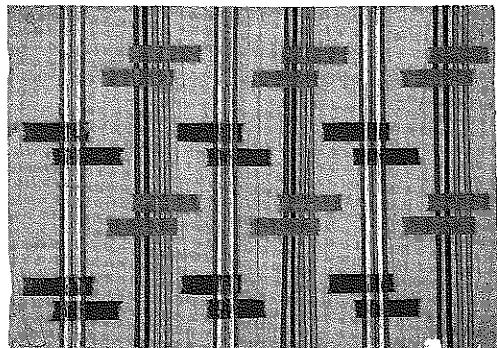
No. M47-O



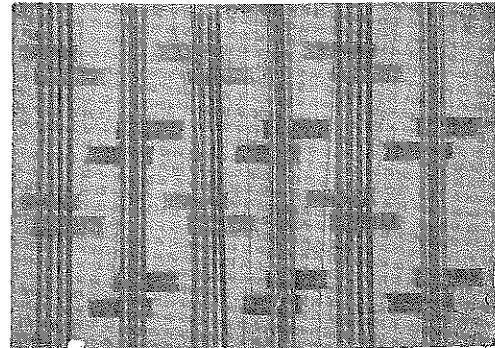
No. M47-U



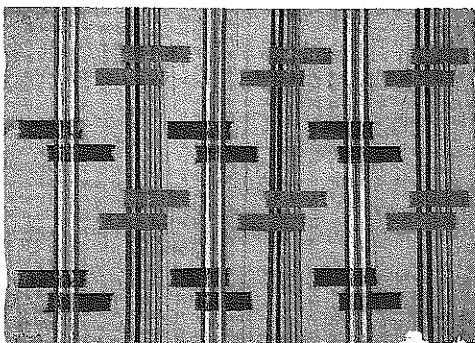
No. M48-O



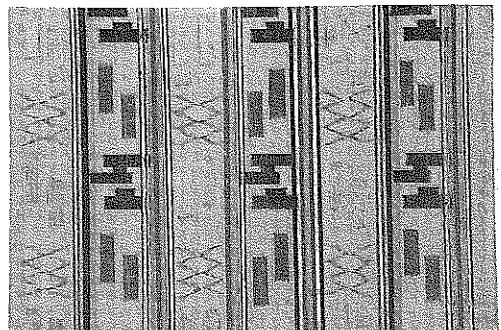
No. M48-U



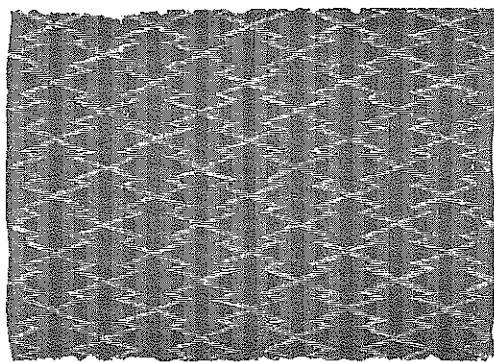
No. M49-O



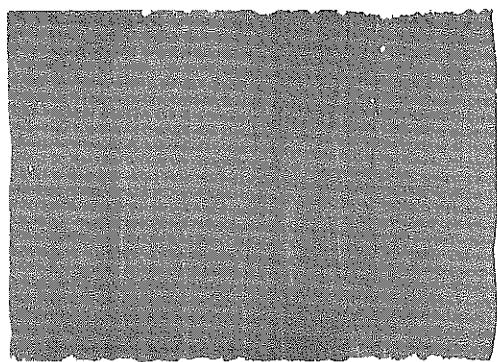
No. M49-U



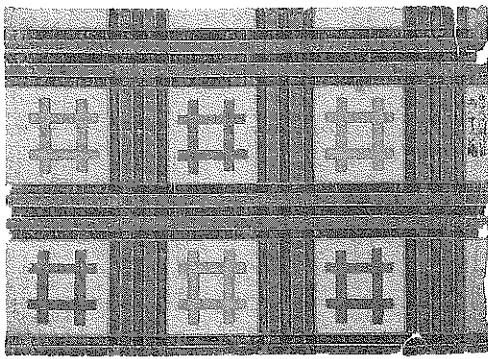
No. M50-O



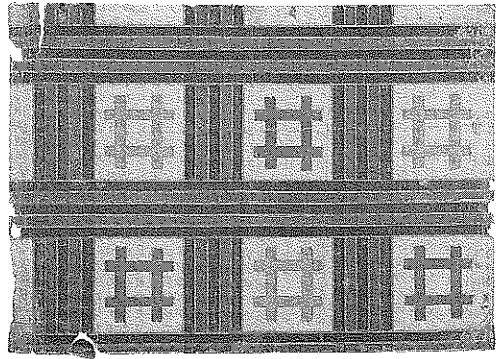
No. M50-U



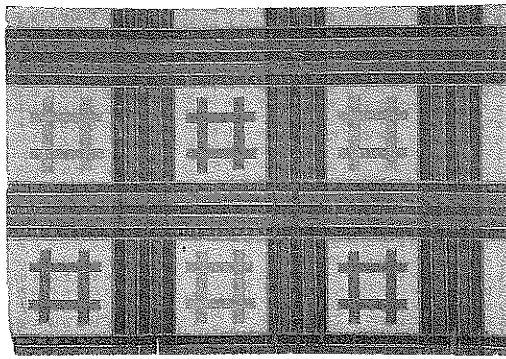
No. M51-O



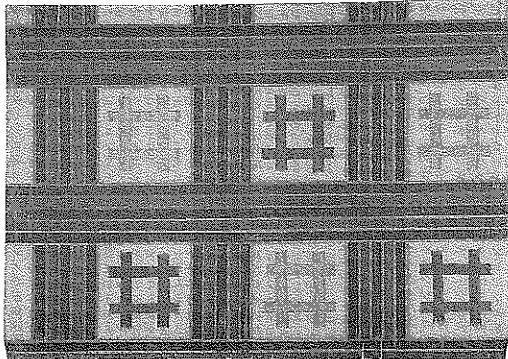
No. M51-U



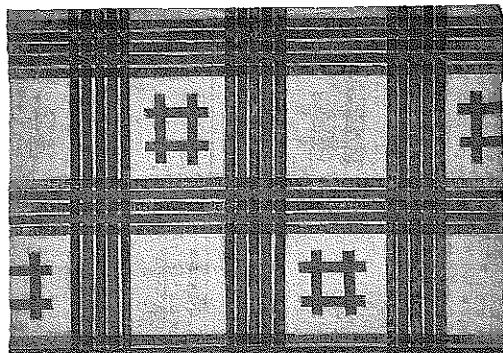
No. M52-O



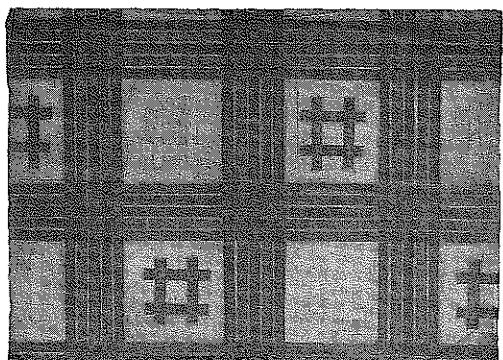
No. M52-U



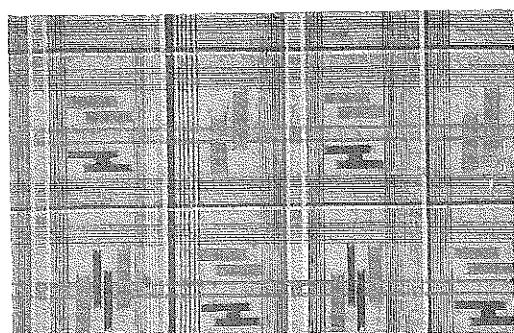
No. M53-O



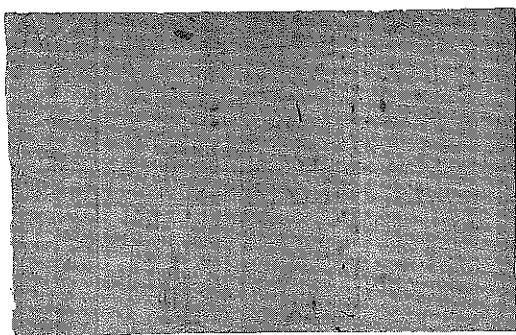
No. M53-U



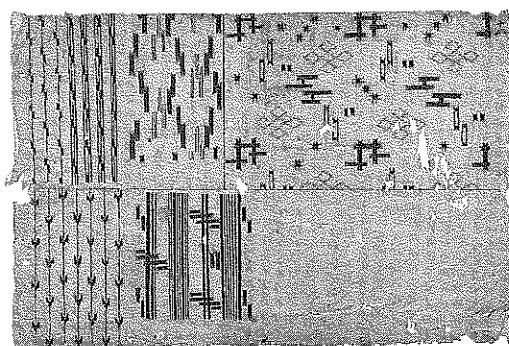
No. M54-O



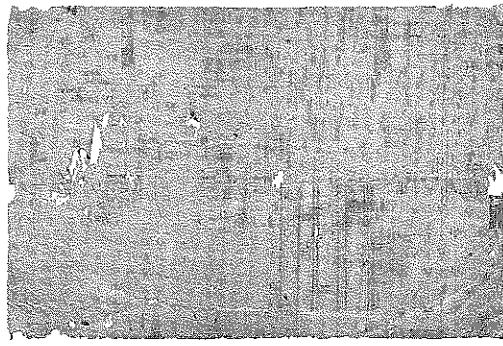
No. M54-U



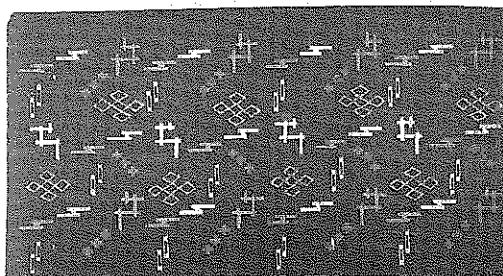
No. M55-O



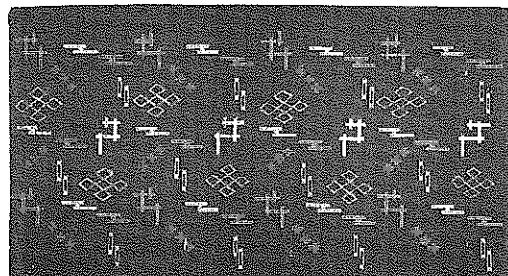
No. M55-U



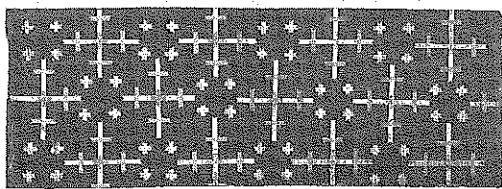
No. M56-O



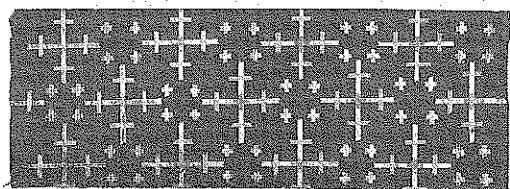
No. M56-U



No. M57-O



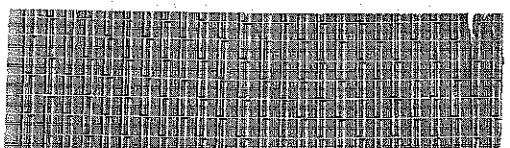
No. M57-U



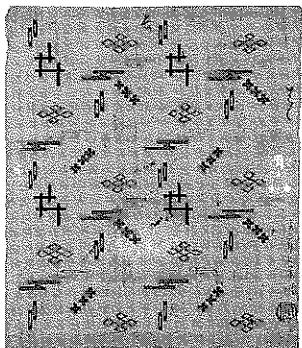
No. M58-O



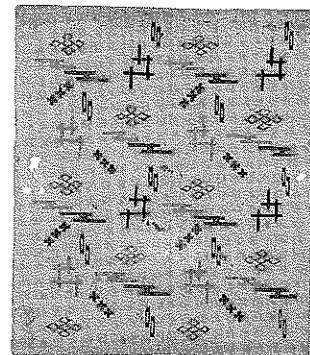
No. M58-U



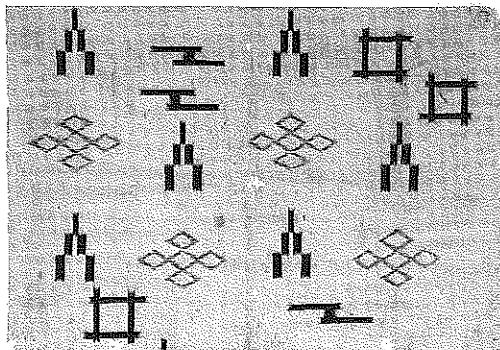
No. M59-O



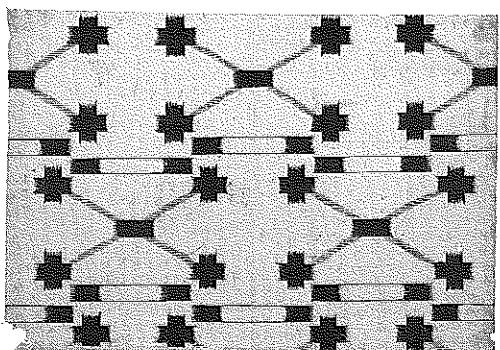
No. M59-U



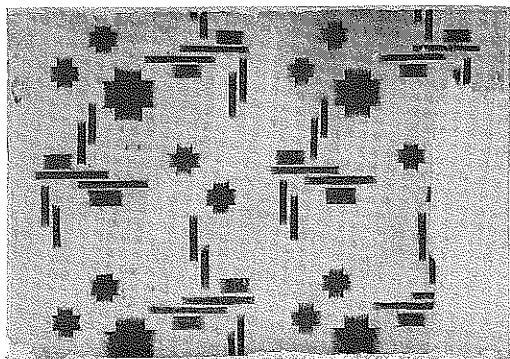
No. M60-DA



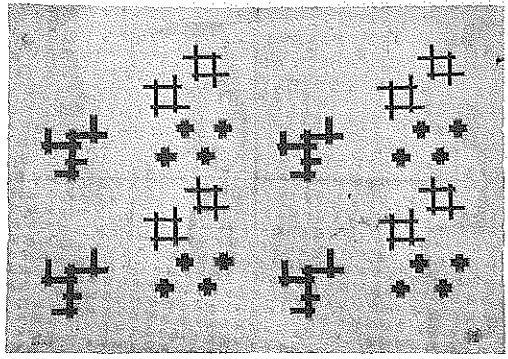
No. M61-DA



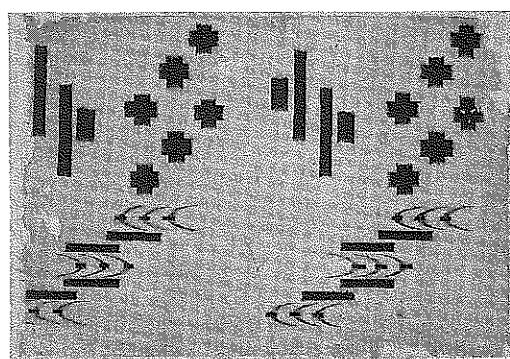
No. M62-DA



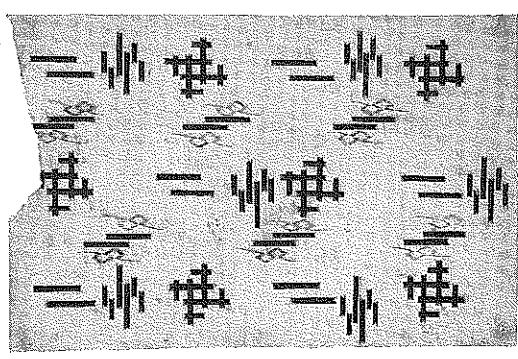
No. M63-DA



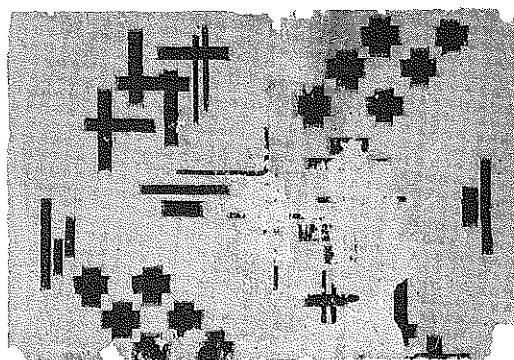
No. M64-DA



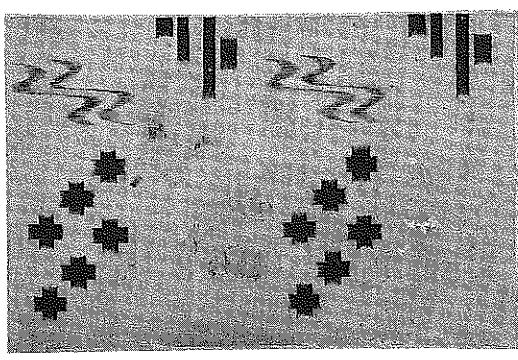
No. M65-DA



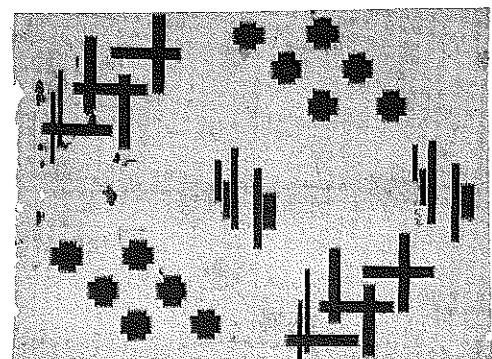
No. M66-DA



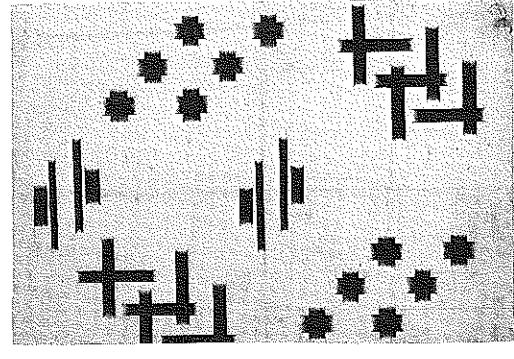
No. M67-DA



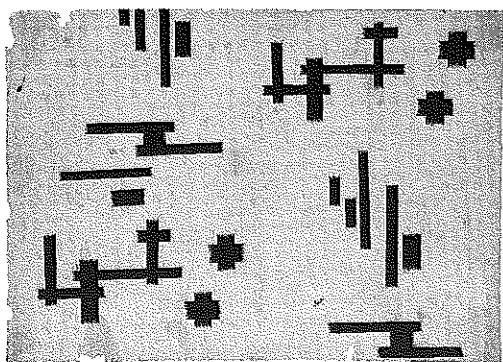
No. M68-DA



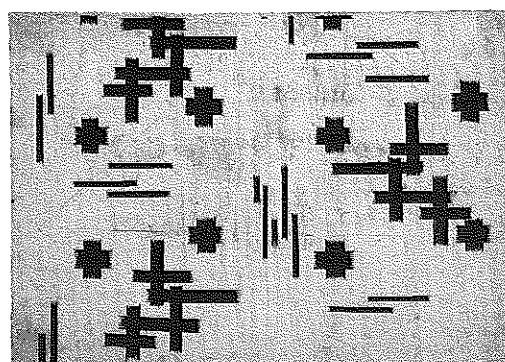
No. M69-DA



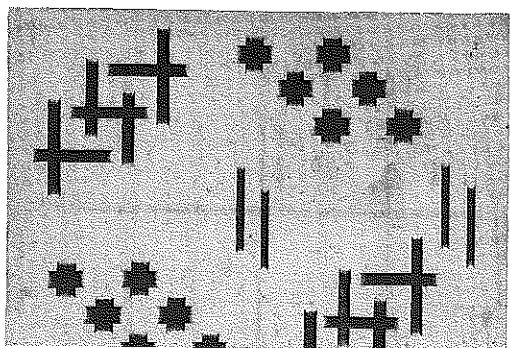
No. M70-DA



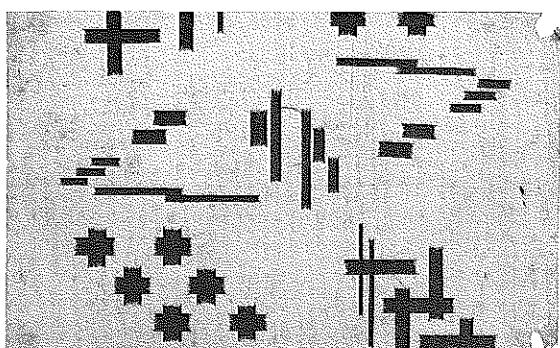
No. M71-DA



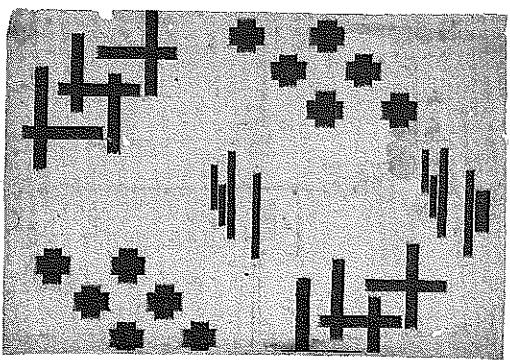
No. M72-DB



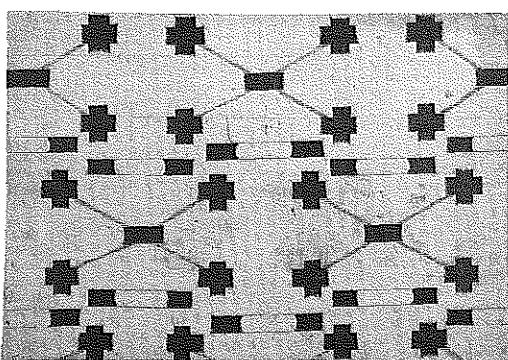
No. M73-DB



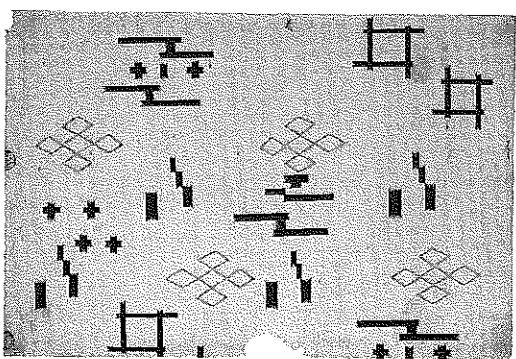
No. M74-DB



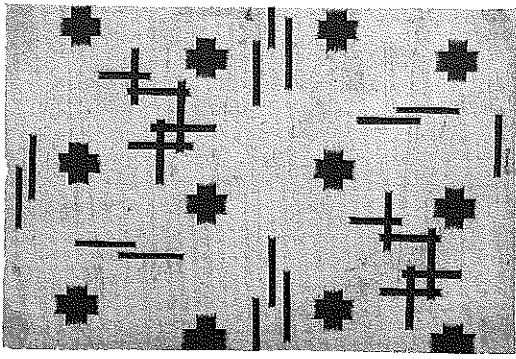
No. M75-DB



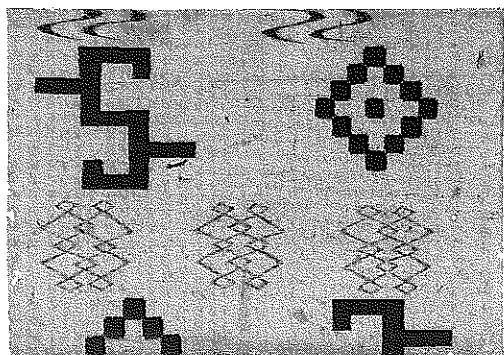
No. M76-DB



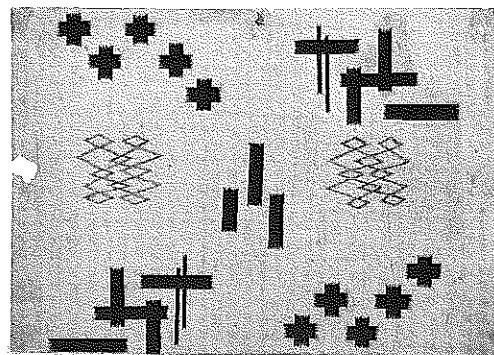
No. M77-DB



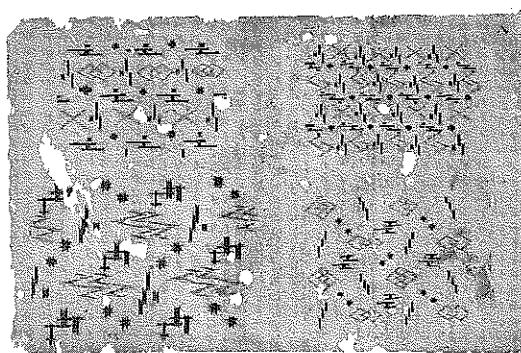
No. M78-DB



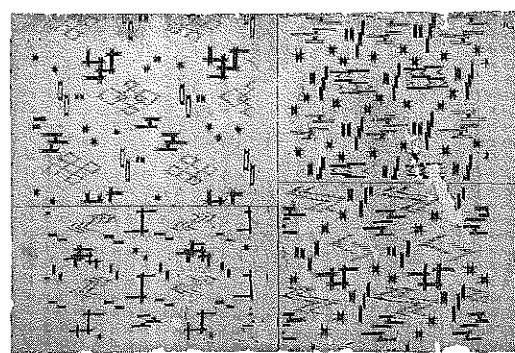
No. M79-DB



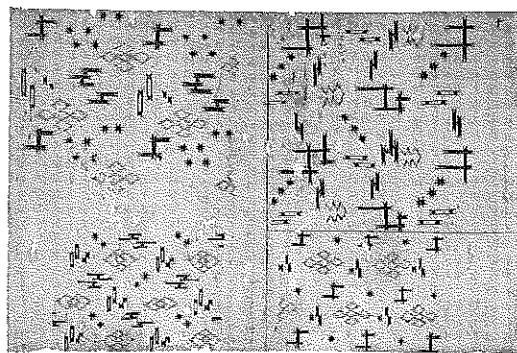
No. M80-DB



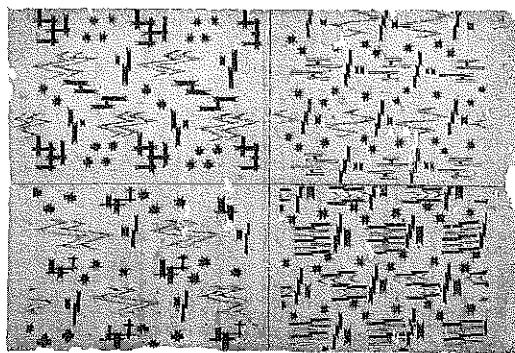
No. M81-DB



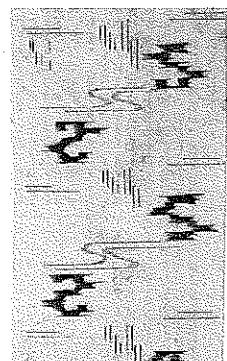
No. M82-DB



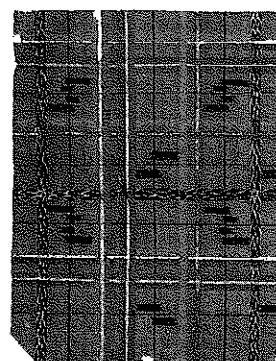
No. M83-DB



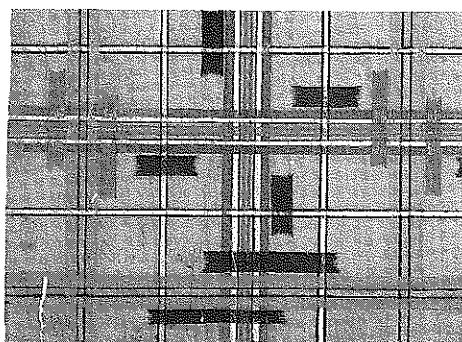
No. M84-DB



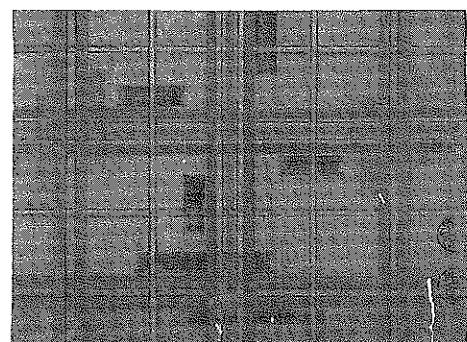
No. M85-O



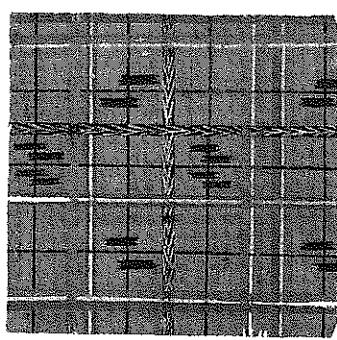
No. M86-O



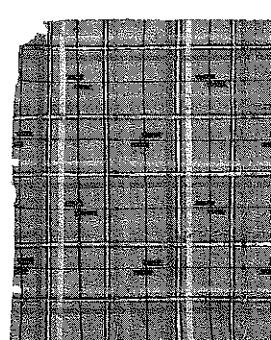
No. M86-U



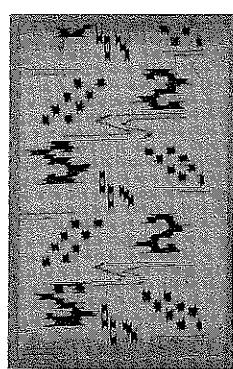
No. M87-O



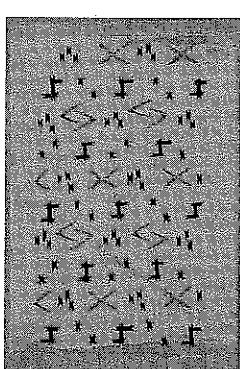
No. M88-O



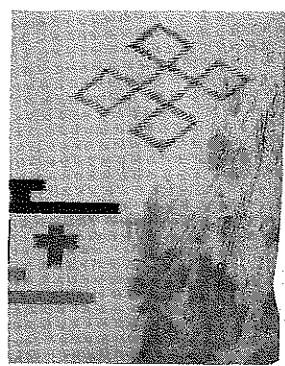
No. M89-O



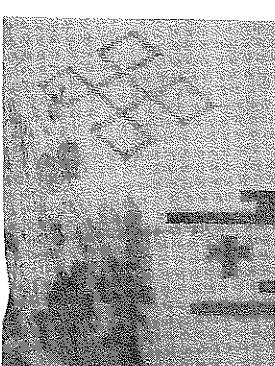
No. M90-O



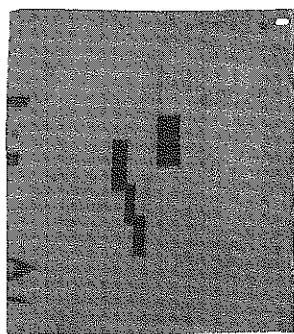
No. M91-O



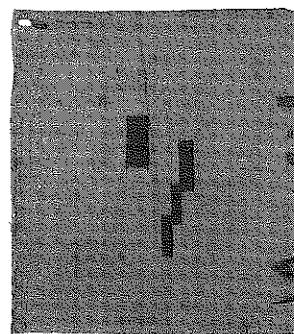
No. M91-U



No. M92-O



No. M92-U



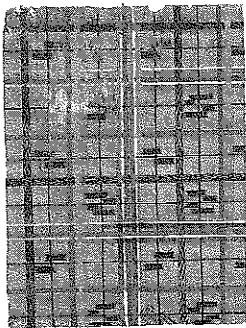
No. M93-O



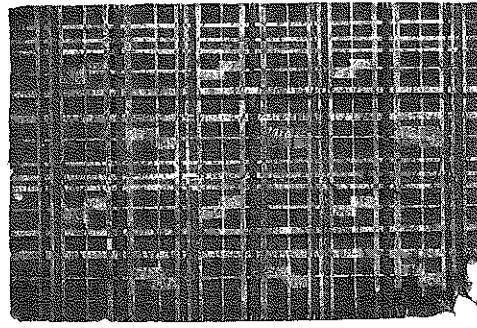
No. M93-U



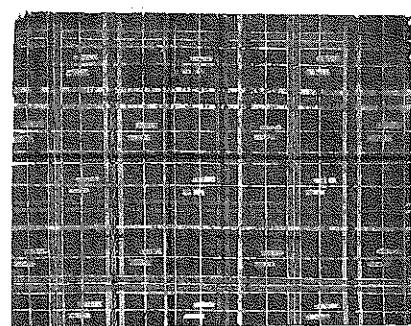
No. M94-C01



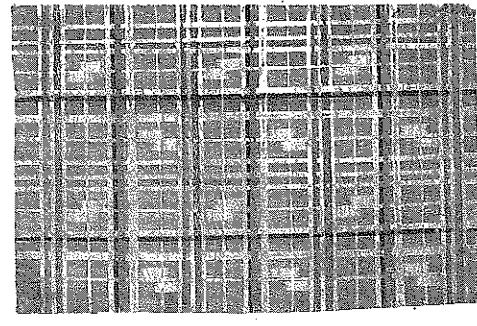
No. M94-C02



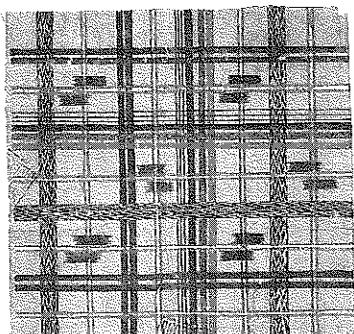
No. M94-C03



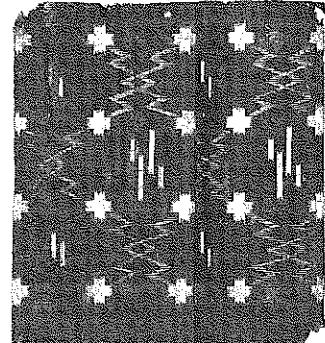
No. M94-C04



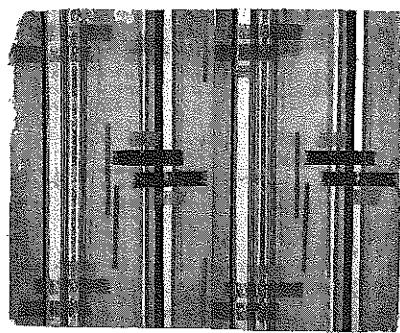
No. M94-C05



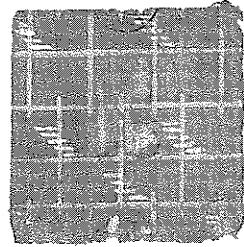
No. M94-C06



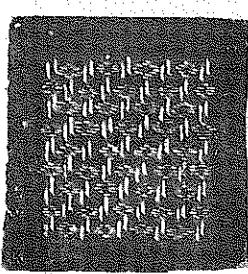
No. M94-C07



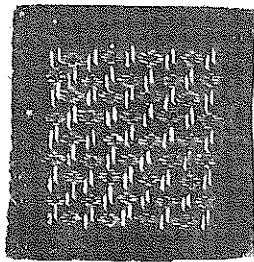
No. M94-C08



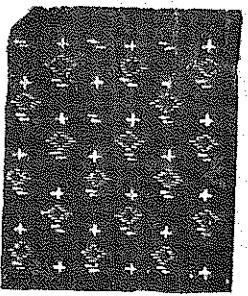
No. M94-C09



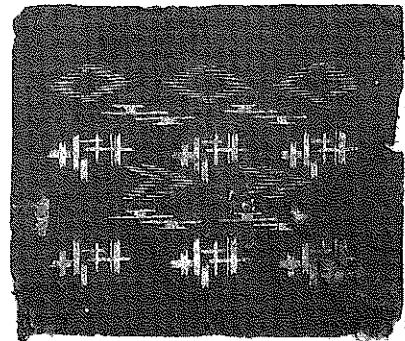
No. M94-C10



No. M94-C11



No. M94-C12



【表1】御絵図 図版データ

No.	図版No.	地色	模様の色	模様の種類	寸法(縦×横)	銘書き・割印など	備考
1	M01-O	表	黄色	赤・青緑	69.3×38.2		2枚継ぎ(上34.2cm・下35.1cm)下を上に3~4mm重ねて4箇所糊付け
2	M01-U	裏	黄色	一			
3	M02-O	表	黄色	黒・赤・青緑	27.8×37.8	銘「長」「幅」「道光拾八年 戌二月八重山嶋」「同二十三年卯二月久米嶋江御通」	
4	M02-U	裏	黄色	黒・赤・青緑			周囲に貼った糊の跡あり
5	M03-O	表	黄色	茶・赤・青緑	27.8×39.4	銘「よこ」「寅」	M12とつながる(下部分)
6	M03-U	裏	黄色	茶・赤・青緑		割印(丸印)2箇所あり	2枚継ぎの跡(変色)あり
7	M04-O	表	黄色	赤・茶・青緑	28.0×39.0	銘「長」 割印(丸印)2箇所	
8	M04-U	裏	黄色	赤・茶・青緑		表印の映り	両端、貼った糊の跡あり2枚物の1枚か
9	M05-O	表	黄色	赤・茶・青緑	27.9×40.2	銘「長」「よこ」 割印(丸印)2箇所	下部に継ぎの跡あり・2枚物の1枚か
10	M05-U	裏	黄色	一		表印の映り	模様なし貼った糊の跡あり
11	M06-O	表	黄色	茶・赤・青緑	27.1×39.1	銘「よこ」	M10とつながる(下部分)
12	M06-U	裏	黄色	茶・赤・青緑			上部に継ぎの跡あり・2枚物の1枚か
13	M07-O	表	黄色	茶・赤・青緑	27.9×39.2	銘「長」「よこ」	「長」の字は滲みあり両端に貼った糊の跡あり・2枚物の1枚か
14	M07-U	裏	黄色	茶・赤・青緑			
15	M08-O	表	黄色	黒・赤・茶	27.8×39.6	割印(丸印)1箇所 裏印の映り	左端に綴じ穴(3箇所)下部に継ぎの跡あり・2枚物の1枚か
16	M08-U	裏	黄色	黒・赤・茶		割印(丸印)1箇所 表印の映り	右端に貼った糊跡あり
17	M09-O	表	黄色	黒・赤・青緑	30.6×39.6	割印(丸印)1箇所	右端に5mmの綴じ跡の変色 右上部分に紙の継ぎ足しあり 2枚物の1枚か
18	M09-U	裏	黄色	黒・赤・青緑		表印の映り	
19	M10-O	表	黄色	赤・茶・青緑	27.6×39.3	銘「子 二月久米嶋御詫」「長」	右端綴じ跡の変色あり 下部に継ぎの跡あり・2枚物の1枚か M06とつながる(上部)
20	M10-U	裏	黄色	赤・茶・青緑			貼った糊の跡あり
21	M11-O	表	黄色	茶・赤・青緑	26.8×40.6	銘「長」	下部に継ぎの跡あり 2枚物の1枚か
22	M11-U	裏	黄色	茶・赤・青緑			
23	M12-O	表	黄色	茶・赤・青緑	30.0×39.4	銘「長」	M03とつながる(上部分) 下部に繋ぎの跡あり・2枚物の1枚か
24	M12-U	裏	黄色	茶・赤・青緑			
25	M13-O	表	黄色	黒・赤・青・ 青緑	27.3×39.5	割印(丸印)1箇所 裏印の映り	2枚物の1枚か
26	M13-U	裏	黄色	黒・赤・青・ 青緑		割印(丸印)2箇所	右側に3mm程綴じ跡の変色あり
27	M14-O	表	黄色	黒・赤・青・ 青緑	27.4×39.4	割印(丸印)1箇所	2枚物の1枚か
28	M14-U	裏	黄色	黒・赤・青・ 青緑		表印の映り	
29	M15-O	表	黄色	黒・赤	25.4×37.2		2枚物の1枚か
30	M15-U	裏	黄色	黒・赤			貼った糊跡あり

No.	図版No.	地色	模様の色	模様の種類	寸法(縦×横)	銘書き・割印など	備考
31	M16-O	表	黄色	黒・赤	25.1×37.0	銘「長」「横」割印(丸印)1箇所	2枚物の1枚か
32	M16-U	裏	黄色	黒・赤		表印の映り	右端綴った跡の変色あり貼った糊跡あり
33	M17-O	表	黄色	黒・赤・青緑	27.2×38.7	銘「黄地」「長」「幅」割印(丸印)1箇所あり	2枚物の1枚か
34	M17-U	裏	黄色	黒・赤・青緑			貼った糊跡あり
35	M18-O	表	黄色	黒・赤・青緑	27.8×39.4	裏印の映り	2枚物の1枚か
36	M18-U	裏	黄色	—		割印(丸印)2箇所	模様なし
37	M19-O	表	黄色	黒・赤・青緑	27.8×38.4	銘「長」「よこ」裏印の映りあり	2枚物の1枚か
38	M19-U	裏	黄色	黒・赤・青緑		割印(丸印)3箇所	右端に綴じ跡の変色あり
39	M20-O	表	黄色	黒・赤・青緑	28.0×39.6	割印(丸印)1箇所	下部に糊の跡あり
40	M20-U	裏	黄色	黒・赤・青緑			貼った糊跡あり・汚れあり
41	M21-O	表	黄色	黒・赤・青緑	27.8×39.4	銘「長」「長」「よこ」「よこ」「口」裏印の映りあり	
42	M21-U	裏	黄色	黒・赤・青緑		銘「裏」割印(丸印)3箇所あり	
43	M22-O	表	黄色	黒・赤・青緑	26.4×37.8	割印(丸印)3箇所	
44	M22-U	裏	黄色	黒・赤・青緑		表印の映り	両端に貼った糊跡あり
45	M23-O	表	黄色	黒・赤・青緑	26.8×38.2	銘「よこ」「長」割印(丸印)2箇所	
46	M23-U	裏	黄色	黒・赤・青緑			両端に貼った糊跡あり
47	M24-O	表	黄色	黒・赤・緑	26.8×38.6	銘「表長」「よこ」裏印の映り	
48	M24-U	裏	黄色	黒・赤・緑		割印(丸印)2箇所	右端に貼った糊跡あり
49	M25-O	表	水色	赤・青緑・黄	24.1×40.8	銘「長」「よこ」	
50	M25-U	裏	水色	赤・青緑・黄		割印(丸印)1箇所	両端に貼った糊跡あり
51	M26-O	表	水色	赤・青緑・黄	28.2×39.5		
52	M26-U	裏	水色	赤・青緑・黄		割印(丸印)2箇所(1箇所は縁のみ)	両端に貼った糊跡あり
53	M27-O	表	水色	赤・青緑・黄	24.0×39.5	銘「横」「長」割印(丸印)2箇所	
54	M27-U	裏	水色	赤・青緑・黄		銘「長」「よこ」	両端に貼った糊跡あり
55	M28-O	表	水色	赤・青緑・黄	28.6×39.5	割印(丸印)1箇所	
56	M28-U	裏	水色	赤・青緑・黄			
57	M29-O	表	水色	赤・茶・緑・黄	25.0×40.0		シミあり・緑と黄は殆ど脱色
58	M29-U	裏	水色	赤・茶・緑・黄		銘「よこ」	シミあり・緑と黄は殆ど脱色

No.	図版No.	地色	模様の色	模様の種類	寸法(縦×横)	銘書き・割印など	備考
59	M30-O	表 水色	赤・茶・青緑・黄	経緯縫 経縫 緯縫	24.8×39.0	銘「壹尺三寸五分」「辛十二月」	
60	M30-U	裏 水色	—	—		割印(丸印) 1箇所	模様なし
61	M31-O	表 水色	赤・青緑・黄	経緯縫 経縫 緯縫	28.4×39.2	割印(丸印) 1箇所	シミあり
62	M31-U	裏 水色	赤・青緑・黄	経緯縫 経縫 緯縫			シミあり
63	M32-O	表 水色	赤・青緑・黄	経緯縫・経縫・ 緯縫	28.0×39.1	割印(丸印) 1箇所	シミあり
64	M32-U	裏 水色	赤・青緑・黄	経緯縫・経縫・ 緯縫		表印の映り	
65	M33-O	表 水色	黒・赤・青緑	経緯縫 経縫 緯縫	27.7×39.6	銘「巾」 割印(丸印) 1箇所 ※「額」の字	右端に綴じ穴跡あり
66	M33-U	裏 水色	黒・赤・青緑	経緯縫 経縫 緯縫		割印(丸印) 2箇所	右端に貼った糊跡あり上部に継 いだ跡あり・2枚物の1枚か
67	M34-O	表 水色	黒・赤・黄	経緯縫 経縫 緯縫	25.7×37.6	割印(丸印) 1箇所	
68	M34-U	裏 裏打ち紙	—	—			裏打ちされている
69	M35-O	表 赤茶	白・赤・青緑・ 黄	経緯縫 経縫 緯縫	27.4×39.4	銘「長」「幅」	
70	M35-U	裏 赤茶	白・赤・青緑・ 黄	経緯縫 経縫 緯縫			両端に糊跡あり
71	M36-O	表 赤茶	黒・赤・青緑	経緯縫 経縫 緯縫	29.0×37.6		
72	M36-U	裏 赤茶	—	—			模様なし
73	M37-O	表 焦茶	白・赤・緑・ 黄	経縫	26.6×35.4	銘「巾」 割印(丸印) 2箇所	模様の赤は殆ど剥離している
74	M37-U	裏 焦茶	—	—			模様なし・貼った糊跡あり
75	M38-O	表 白	黒・白	経縫 緯縫	29.0×38.1	割印(丸印) 1箇所	
76	M38-U	裏 白	—	—		表印の映り	貼った糊跡あり
77	M39-O	表 白	黒	経縫 緯縫	33.8×39.6		紙の上部を継ぐ。右は切れた部 分をセロテープで補修
78	M39-U	裏 白	—	—			
79	M40-O	表 白	黒	経縫 経縫 緯縫	25.9×37.6	銘「六」	
80	M40-U	裏 なし	—	—			
81	M41-O	表 白地	黒	経縫 経縫 緯縫	25.4×38.0		別の絵図の映りがある
82	M41-U	裏 白地	—	—			表模様が写っている
83	M42-O	表 白	黒	経縫 経縫 緯縫	28.0×37.3	銘「長」「よこ」 割印(丸印) 1箇所	4枚に切れている
84	M42-U	裏 なし	—	—		表印の映り	
85	M43-O	表 白	黒	経縫 緯縫	27.7×34.8		
86	M43-U	裏 白	—	—			
87	M44-O	表 黄色	黒・赤・緑	経縫 経縫 緯縫	26.8×39.2	割印(丸印) 1箇所	貼った糊の跡あり
88	M44-U	裏 黄色	黒・赤・緑	経縫 経縫 緯縫			
89	M45-O	表 黄色	黒・白・赤・ 青緑	絹縫・経縫・ 緯縫	26.4×38.7	銘「長」「幅」「道光十八 年戊二月久米嶋江」	
90	M45-U	裏 黄色	黒・白・赤・ 青緑	絹縫・経縫・ 緯縫		割印(丸印) 2箇所	紙の周囲に貼った糊跡あり

No.	図版No.	地色	模様の色	模様の種類	寸法(縦×横)	銘書き・割印など	備考
91	M46-O	表	黄色	黒・白・赤・青緑	26.0×30.4		右端2箇所に綴じ穴か左端2箇所に綴じ穴か
92	M46-U	裏	裏打ち紙	—			裏打ち紙あり
93	M47-O	表	黄色	黒・赤・緑・白	25.9×38.6		
94	M47-U	裏	黄色	黒・赤・緑・白		割印(丸印)1箇所	貼った糊跡あり
95	M48-O	表	黄色	黒・白・赤・青緑・青	27.7×39.0	銘「長」「よこ」 割印(丸印)3箇所	貼った糊跡あり
96	M48-U	裏	黄色	—		表印の映り	貼った糊跡あり 模様なし
97	M49-O	表	水色	黒・白・黄・赤・青緑	26.2×38.7	割印(丸印)1箇所	
98	M49-U	裏	水色	黒・白・黄・赤・青緑			貼った糊跡あり
99	M50-O	表	墨色	黒・白	27.4×38.2		
100	M50-U	裏	墨色	—			模様なし
101	M51-O	表	黄色	赤・青・青緑	27.8×37.8	銘「佐敷御殿御用／西年 御説」 裏印の映り	
102	M51-U	裏	黄色	赤・青・青緑		銘「長」 割印(丸印)3箇所	貼った糊跡あり
103	M52-O	表	黄色	赤・青・青緑	27.7×39.6		
104	M52-U	裏	黄色	赤・青・青緑			貼った糊跡あり
105	M53-O	表	白地	赤・青・黄	27.2×38.7	割印2	
106	M53-U	裏	白地	—		割印1	
107	M54-O	表	水色	黒・白・赤・青・黄	25.2×39.6		
108	M54-U	裏	裏打ち紙	—			裏打ち・模様なし
109	M55-O	表	白地	黒	26.0×39.0	銘「十二」	6種の絵図が描かれている
110	M55-U	裏	裏打ち紙	—			別の絵図の映りがある
111	M56-O	表	焦茶	白・赤・青緑・黄	21.0×39.3	銘「長」「幅」	
112	M56-U	裏	焦茶	白・赤・青緑・黄			右端に貼った糊跡あり
113	M57-O	表	焦茶	白・赤・青緑・黄	14.0×39.0		貼った糊跡あり
114	M57-U	裏	焦茶	白・赤・青緑・黄		割印(丸印)1箇所	
115	M58-O	表	黄色	黒・白・赤・青・緑	11.0×38.4	割印(丸印)2箇所 裏印の映り	
116	M58-U	裏	黄色	黒・白・赤・青・緑		割印(丸印)1箇所 表印の映り	
117	M59-O	表	水色	黒・赤・茶・青緑・黄	25.7×22.0	銘「長」「よこ」「三月久 米鷲」 割印(丸印)1箇所	
118	M59-U	裏	水色	黒・赤・茶・青緑・黄		表印の映り	
119	M60-DA	白	黒	経緯縞 経縞	27.5×39.4	割印(丸印)1箇所	折本装
120	M61-DA	白	黒	経緯縞 緯縞	27.6×39.8		折本装

No.	図版No.	地色	模様の色	模様の種類	寸法(縦×横)	銘書き・割印など	備考
121	M62-DA	白	黒	経緯縞 経縞 緯縞	28.0×40.1		折本装
122	M63-DA	白	黒	経緯縞	27.7×39.3	割印(丸印) 2箇所※ 1箇所は「信」の字	折本装
123	M64-DA	白	黒	経緯縞 経縞 緯縞	26.0×36.6		折本装
124	M65-DA	白	黒	経緯縞 経縞 緯縞	25.9×39.4		折本装
125	M66-DA	白	黒	経緯縞 経縞	26.7×38.7		折本装
126	M67-DA	白	黒	経緯縞 経縞 緯縞	26.0×39.5		折本装
127	M68-DA	白	黒	経緯縞 経縞	28.6×38.8	割印(丸印) 1箇所	折本装
128	M69-DA	白	黒	経緯縞 経縞	27.7×40.6	割印(丸印) 3箇所	折本装
129	M70-DA	白	黒	経緯縞 経縞 緯縞	28.1×39.8		折本装
130	M71-DA	白	黒	経緯縞 経縞 緯縞	28.0×39.1		折本装
131	M72-DB	白	黒	経緯縞 経縞	27.2×40.1		折本装
132	M73-DB	白	黒	経緯縞 経縞 緯縞	24.9×40.1		折本装 朱の線が入っている
133	M74-DB	白	黒	経緯縞 経縞	27.3×39.5	割印(丸印) 2箇所	折本装・修正の紙が貼り付け
134	M75-DB	白	黒	経緯縞 緯縞	27.2×39.6	割印(丸印) 1箇所	折本装
135	M76-DB	白	黒	経緯縞 経縞 緯縞	27.0×39.9	銘「長」「よこ」 割印(丸印) 2箇所	折本装
136	M77-DB	白	黒	経緯縞 経縞 緯縞	26.0×38.8	銘「長」「よこ」 割印(丸印) 1箇所	折本装
137	M78-DB	白	黒	経緯縞 緯縞	27.8×39.5	銘「長」	折本装 2枚物の可能性あり
138	M79-DB	白	黒	経緯縞 経縞 緯縞	28.2×39.2	銘「長」	折本装
139	M80-DB	白	黒	経緯縞 経縞 緯縞	26.2×39.8	銘「八」	折本装・4図柄・左端に綴じ穴(4箇所)
140	M81-DB	白	黒	経緯縞 経縞 緯縞(4図柄とも)	26.3×39.2	銘「九」	折本装・4図柄・右端に綴じ穴(4箇所)
141	M82-DB	白	黒	経緯縞 経縞 緯縞	26.1×39.4	銘「十」	折本装・4図柄・右端に綴じ穴(4箇所)
142	M83-DB	白	黒	経緯縞 経縞 緯縞(4図柄とも)	26.2×39.8	銘「十一」	折本装・4図柄・右端に綴じ穴(4箇所)
143	M84-DB	白	黒	経縞 緯縞	12.25×7.4		折本装・紙が小さい
144	M85 表	鶯茶色	黒・白・赤・青・青緑	格子縞 緯縞	9.1×6.9		薄茶の紙に貼り付け
145	M86-O 表	赤香色	黒・白・赤・青・青緑	格子縞 経縞 緯縞	14.2×19.4	裏印の映り	
146	M86-U 裏	赤香色	—	—		割印(丸印) 2箇所	貼った糊跡あり
147	M87 表	香色	黒・白・赤・青・青緑	格子縞 緯縞	6.7×6.9		薄茶の紙に貼り付け
148	M88 表	鼠色	黒・白・赤・青緑・黄	格子縞 緯縞	11.7×9.5		薄茶の紙に貼り付け
149	M89 表	白	黒	経緯縞 経縞 緯縞	12.3×7.6		薄茶の紙に貼り付け
150	M90 表	白	黒	経緯縞 経縞 緯縞	12.8×8.4		薄茶の紙に貼り付け
151	M91-O 表	黄色	黒・赤・青緑	経縞 緯縞	13.7×10.8		
152	M91-U 裏	黄色	—	—			貼った糊跡あり

No.	図版No.	地色	模様の色	模様の種類	寸法(縦×横)	銘書き・割印など	備考
153	M92-O	表 裏	黄色 黒・赤・青緑	経縞 縱縞	13.6×12.0		右端に綴じ跡の変色あり
154	M92-U		黄色 黒・赤・青緑	経縞 縱縞			
155	M93-O	表	白	黒 経縞縞 経縞 縦縞	20.2×6.4		
156	M93-U	裏	白	黒 経縞縞 経縞 縦縞			
157	M94-C01	阿ま んだ	黒・白・赤・ 青緑・青	格子縞 縱縞	13.3×10.0	割印(角印) 1箇所	「調文」1頁に貼付 絵図下に「阿なんだ」と墨書
158	M94-C02	柿色 地	黒・白・赤・ 青・黄	格子縞 縱縞	11.0×16.3	割印(角印) 1箇所	「調文」1頁に貼付 絵図下に「柿色地」と墨書あり
159	M94-C03	すす 竹色	黒・白・赤・ 青・青緑・黄	格子縞 縱縞	12.6×16.3	割印(角印) 1箇所	「調文」2頁に貼付 絵図下に「すす竹色地」と墨書
160	M94-C04	鼠色	黒・白・赤・ 青・緑・黄	格子縞 縱縞	10.6×16.2	割印(角印) 1箇所	「調文」2頁に貼付 絵図下に「鼠色地」と墨書
161	M94-C05	黄色	黒・白・赤・ 緑	格子縞 縱縞	11.4×11.9	割印(角印) 2箇所	「調文」3頁に貼付 絵図右に「黄色地」と墨書
162	M94-C06	黒	白	経縞縞 経縞 縦縞	20.7×19.5		「調文」6・7頁に貼付
163	M94-C07	黄色	黒・白・赤・ 青緑	経縞 経縞 縦縞	25.7×32.0	割印(角印) 1箇所	「調文」8・9頁に貼付
164	M94-C08	鼠色	白・黄	縞縞 経縞 縦縞	5.1×5.1	割印(丸印) 1箇所	「調文」12頁に貼付
165	M94-C09	黒	白	経縞 縱縞	5.6×5.4	銘「長」「横」	「調文」12頁に貼付
166	M94-C10	黒	白	経縞 縱縞	6.2×4.6	銘「長」「横」	「調文」12頁に貼付
167	M94-C11	黒	白	経縞縞 縱縞	6.8×5.6	銘「長」「横」	「調文」12頁に貼付
168	M94-C12	黒	白	経縞縞 経縞 縦縞	8.9×10.5		「調文」12頁に貼付